八代中学　八代高女　八代高校

八高同窓会会報 第14号

道

Contents

- 対談　同窓会会長×八代高校校長
- 各支部・地区活動紹介
- 学年活動紹介
- 八高史に見る「“文武両道”への歩み」
- 八高家族の物語
- 八高の思い出「我が恩師編」
- 2020年7月豪雨を乗り越えて
- 頑張ってます
- 大学生紹介
- 高校生紹介
- 母校だより
- 広告を掲載します
- 「はちこみゅ」＆「お仕事図鑑」
- 事務局より
- 写真でたどる八高史

2022
鳳雛祭
【体育の部】

令和４年11月15日発行

熊本県立八代高等学校同窓会

岩本新校長『道』を探る／聞き手 村山同窓会会長
～八代高校で培ったものを未来に繋げる～

対談

八高同窓会 会長 村山 忍 × 八代高校 校長 岩本 修一

会長　今年、八代高校は高34回卒の岩本修一校長をお迎えしました。八高同窓生として大変喜ばしいことだと思っております。岩本校長の八高時代の思い出話や教員としての体験談を踏まえ、それが現在の自分にどう生かされてきたのか、これからの八高の学校経営などにどう繋げていかれるのか、率直なところをお聞きしたいと思います

校長　八代高校には生徒として3年間、数学教員として12年間、校長として1年通算16年お世話になっています。

熊本を離れたのは大学4年間のみでしたが、その期間が、郷土愛を強くしたと思います。新聞で母校の記事を見つけると、母校が気になり、熊本に帰りたくなりました。

会長　実は、八代清流高校に赴任された時、次は八代高校かなと楽しみにしていましたが、なかなかこちらの期待通りにはなりませんでした。

校長　母校に戻らせてもらうという願望はありましたが、教職には異動がつきものなので、着任した学校で精一杯頑張る！と言うのが一番で、八代清流高校長時代は「八高には負けたくない」という思いでおりました。

会長　岩本校長はあの秋山君の一年下でしたね。部活など当時の八高時代の思い出をお聞かせください。

校長　八高を知るきっかけは、小学校登校時に、毎日同じ場所で出会う八高の女子生徒3人が自転車で一列に並んで通学している姿に「すごいなあ、その学校に行きたい」と思っていたことを鮮明に覚えています。

中学校の部活動時代は先輩後輩の垣根が高かったが、八高では垣根がなくて先輩を慕い、部活動（野球）ができました。でも、顧問の先生はいい意味で厳しかったですね。雨の日は雨合羽を着て大島まで走るトレーニングがあり、とてもきつかったですね。野球部は制帽（校章付き）をかぶることを命じられていました。（制帽は野球部と剣道部のみかぶっていた）全体練習は19時半で終わっていましたが、たまに日没後トスバッテングをさせられる時があり、「ボールが見えない」と言うと「暗くなったら目で見るのでなく心で見る！」と言われていました。当時、ノックボールは30個位しかなく、汚れや傷みが激しく、スポーツ店で糸を買い、ほつれを手縫いして使い、田んぼに入ったボールを探して取るのに苦労したが、限られた道具を大切に使うということだったと思います。当時、練習中に水を飲むことが禁止されており、のどの渇きをおさえるため、マヨネーズの空容器を洗い、水を入れて凍らせ、外野の草むらに隠しておいてボールが飛んで行った時に飲んでいたことも思い出です。

周りの友達もほとんど大学進学で、2年生の頃は、2、3時限後の休み時間に早弁をして、昼休みは図書室で英単語の勉強をすることを日課にし、周りの友達の影響を受け、限られた時間の中でどうすれば進路目標の実現ができるかを考えながら勉強をしていました。試験の成績結果次第では、体育教官室に呼ばれ部活動だけでなく勉強も頑張るように指導を受けていました。服装、校則はあまり厳しくなく、校則を意識したことはありませんでした。

会長　八高生の自転車通学の姿は美談として伝えていくべきですね。それでは、教員生活の体験談や教育方針などをお聞かせください。

校長　平成2年八高に着任した時、野球部には制帽をかぶらせたかったので、売店に校章を注文し、制帽をかぶらせていましたね。

八高では、英語科の教師が引っ張っておられたので、数学科としても英語科に負けたくないという教科間の競い合いをしていました。思い出にあるのは、初任の教員と一緒に、年3回の模擬試験前にセミナー合宿などを希望者に実施していました。部活動後の参加も認めていたので、みんながものすごく勉強をしてくれました。現在、各方面で活躍している卒業生が多くいますが、私自身がそういう生徒と巡り合わせてもらったと思います。広島大学の受験の応援に行った際、熱発している生徒に「大丈夫？」と声をかけると「こんなことでは負けられません」と強く言った生徒がいました。電子郵便で合格者の受験番号が送られてきていた時に、「開封ができない」と言う生徒など印象に残る生徒とたくさん出会い、教師として頑張らないといけないと思っていました。教師は生徒を育て、生徒から育てられていると強く感じています。

八高教員時代の12年間は、野球部監督

と部長として生徒と関わってきましたが、出会った部員の中には、大学卒業後、学芸員や日本画家など文学や芸術で活躍している方もいます。野球だけでなく、いろんな可能性をもっているので、教師だけで可能性を見いだせないこともあり、先入観で生徒を見てはいけない、可能性は無限大であると考えて関わっています。後々、悔いが残らないようにしてもらいたいですね。「生徒に教えられる」を味わえるのは教員にしかできないことです。「合格できたからありがとうございました」とお礼を言われることだけでなく、合格できなくても「高校3年間で子どもが成長できました」と保護者から言ってもらえるのは教員になってよかったと感じる時です。

会長　「教師は生徒から育てられている」という言葉にジーンと心を打たれました。私も80歳に近いが、人生は最後まで勉強だと思っています。八高の学校紹介にも『可能性は無限大』とされており、その通りだと思いますね。それでは、八高生時代と現状の違いなどお聞かせください。

校長　教育は、役割があり、誰かが担っていかないといけないものです。今までやってきたことだけでなく、時代のニーズや求められていることに応じてやっていくべきで、自分の気質や考えだけでは解決できないところがあり、今、教育に問われていることだと思います。生徒たちと話すと、人への思いやり・ボランティア精神・自治会活動への参加など積極的な生徒が多く、自分たちの時代とは違っています。この前、高校生県議会（県内6校20人の生徒）では、本校の金橋自治会長が議長を務め、3人の生徒が知事等に若者の視点で質問をしました。

　また、コロナ禍で学校活動が制限されているが、9月予定の鳳雛祭の取り組みに向け、自治会活動に多くの中高生が積極的に参加していると聞き、私たちの時代とは大きく変わってきていますね。時代とともに気質は変わってきているのかもしれないが、良さをもっている生徒が多くいますので、高校3年間でその良さを更に見出す役割を担っているのかなと思います。

会長　八代中学校10周年行事で山口生徒会長は挨拶にて吉田松陰について話し、とてもびっくりしました。私は慌てて、吉田松陰の本を買いに行き、勉強しました。生徒さんに育てられたと感じた出来事です。中高時代は、心も体も成長していく時ですね。それでは、校長としての学校経営方針などをお聞かせください。

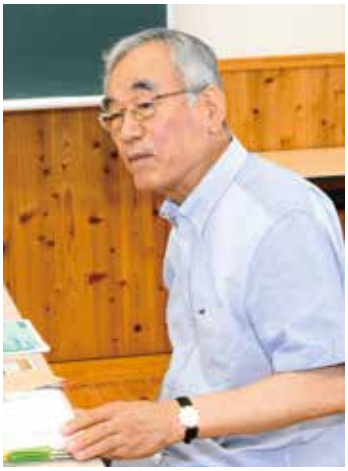
校長　「八高は勉強ばかりでしょう?」と言われることが多いが、自治会活動やボランティア活動も積極的です。八高のネームバリューだけでは、地域の評価にならないので、八高の伝統に加え、今の取り組みなどの情報発信を積極的に行っていかないといけません。熊本県教育委員会県立高校スクール・ミッションに併せて、八高としてスクールポリシーを作成し教育活動の充実を図っていきます。学力向上と進路保障だけではなく、学校行事等の充実を図り、人間性・人間力を高めていきます。決めごとは生徒と一緒に決めていきます。

　ひとつ残念なことは校内で挨拶ができていないことです。工事関係者が校内で工事している時にも、「おはようございます」「お世話になります」「失礼します」などの挨拶ができていません。大きな声で挨拶を!させられている挨拶を!ということではありません。今の自分があるのは周りの方への感謝の気持ちをもつことであり、挨拶ができるようになってほしいと思います。校則の制限を緩和しているので、ルーズになってはいけないと思っています。自ら律し、自らいろんなことを取り組める生徒になってほしいですね。

会長　挨拶は大人にも責任があるように思いますね。最後になりましたが、生徒や同窓会に望むことはありますか。

校長　コロナ禍で制限があり、海外研修ができない中、経済的支援にはありがたく思っています。学校教育は生徒、職員、保護者、同窓生、地域の協力があって成立するものです。今後も同窓会のみなさんに相談させていただきながら、生徒には充実感、満足感、達成感を感じられるようにしていきたいと考えています。そして、全国には八幡高校や八戸高校など『八高』と言われる高校がいくつかありますが、『八高』イコール『八代高校』となり、全国に知れ渡るようになりたいですね。

　今思うと甲子園へ向けて頑張っていた八高野球部時代、勝利した後藤崎台で歌う校歌は格別でした。声を張り上げてみんなで歌いました。頑張れば報われる、校歌「道」は今でも私の応援歌となっています。



会長　同窓会としても将来の目標となる情報などを知らせることが大切であると考え、同窓会ではお仕事図鑑を新たに始め、生徒の進路の選択肢のひとつとなるよう先輩の活躍や頑張りなどを掲載する取り組みを始めます。全国各地の卒業生は財産であり、整理をして生徒さんに知らせ、生徒と結びつけられたらと願っています。

　今日は、校長先生には興味あるお話をたくさんお聞きでき、楽しい時間となり感謝致します。ありがとうございました。

岩本修一校長 略歴
- 八代二中卒、東京理科大学卒
- S61年県立高校数学科教員
- H2年度～H13年度 八高数学科教員着任
- 野球部監督10年、部長2年

村山忍会長 略歴
- 八代一中卒、中央大学卒業
- (公財)宮嶋利治学術財団 理事長
- 八代弘済会理事長
- 同窓会長6年目

関東地区同窓会

私たち関東地区同窓会は、関東一都六県とその近県の卒業生、旧職員等を会員として活動しています。

会員はおよそ2千4百名で、学年幹事会を開催して運営しております。

活動は「総会・祝宴」「倶楽部活動」等を行っており、ホームページ、facebook等を使い分けて情報交換し、交流の充実を図っております。

会の活動について

関東地区同窓会では例年「総会・祝宴」やゴルフ、スポーツ観戦、観劇、鑑賞会、飲み会など「有志の倶楽部活動」などを行ってきました。

しかし現在は、2020年より続くコロナ禍の為、会の活動は総て中止しております。

特に総会・祝宴は楽しみにしている方が多数おられ、今年は規制もないので開催自体は可能なのでしょうが、万が一にも我々がクラスターになる訳には行かず、また来場者数も少なく採算割れが予想される事もあり、中止にいたしました。

ただ、来年（2023年）には、治療薬の承認や集団免疫の形成などを期待して、開催に向けて準備を進める予定にしております。

通信・連絡

関東地区同窓会のホームページ「八高関東どっと混む」は、各種ご案内・報告事項などを掲載しております。

「http://www.85kantou.com/」にアクセスしてご覧ください。

また、ニュース、お知らせなどはfacebook「https://www.facebook.com/85kantou/」に随時掲載しております。

関東地区での住所変更は、ホームページ「http://www.85kantou.com/」をご利用ください。

名所紹介

現在、会の活動がないので、鎌倉宮と鎌倉殿ゆかりの地のご紹介をさせていただきます。

「鎌倉宮の高田ミカン」

神奈川県鎌倉市の鎌倉宮は、後醍醐天皇の皇子の大塔宮（おおとうのみや）護良親王（もりながしんのう）をおまつりした神社で、八代宮の懐良親王は護良親王の弟宮であるため、鎌倉宮と八代宮は兄弟宮とされています。

鎌倉宮 高田みかん

その御縁で、2018年2月25日㈰に八代高校同窓会の岡山前会長が中心となり「高田ミカン」の植樹が行われ、その後根付いて順調に生育し、本年も可愛い実をつけていました。

鳥居両脇の目立つ場所なので散歩で来られた地元の方に話を聞くと「たかだみかん可愛いね」と言って実の成長を楽しみにしておられました。まあ、「こうだみかん」なのですけどね。^^;

関東では珍しく八代と直接関係を有する地ですので、このご縁を大切にしていきたいと考えております。

「鎌倉殿ゆかりの地探訪」

大河ドラマ「鎌倉殿」は、関東地区が主な舞台で、源頼朝が興した初の本格的な武家政権について描いています。コロナ対策に配慮して広報担当の二人で分担して取材をしてきました。

ゆかりの地探訪の2コース

♪日帰り遠足として、ちょうどよい。♬

①JR鎌倉駅→「鶴岡八幡宮」→「史跡法華堂跡（源頼朝墓、北条義時墓）」

●鶴岡八幡宮：

鎌倉武士の守護神。鎌倉初代将軍源頼朝ゆかりの神社。

史跡法華堂跡

鶴岡八幡宮

●史跡法華堂跡：

源頼朝の墳墓堂である法華堂があった場所。1779年に島津重豪により整備。

②京急線、富岡駅「富岡八幡宮」↓金沢八景駅「瀬戸神社」

「琵琶島神社」

●富岡八幡宮：

1191年、源頼朝が、鎌倉の鬼門にあたる富岡に鬼門封じとして造営。

●瀬戸神社：

1180年、源頼朝は伊豆で挙兵した際に加護をもらった伊豆三島明神をこの地に勧請し社殿を建立。

●琵琶島神社：

頼朝の瀬戸神社建立に合わせて、北条政子が自身の信仰する竹生島弁財天を祀るために瀬戸神社前の海の島を整備して築いた。

富岡八幡宮

瀬戸神社

詳しくは関東地区同窓会のホームページに掲載しましたので、よろしければご覧ください。

「http://www.85kantou.com/2022/sec/2022miti_kantou_manuscript.pdf」

「http://www.85kantou.com/2022/sec/2022kamakuradono_yukaritanbou.pdf」

広報担当 立居場誠治（高29回卒）
松本 達郎（高32回卒）

関西同窓会

令和4年度八高関西同窓会 総会・懇親会報告

新型コロナウイルス禍で大変な時代ですが、その蔓延の隙間を縫って、令和4年6月4日㈯、八高関西同窓会は、大阪市此花区のホテル京阪ユニバーサル・タワーにおいて、岩本修一校長（高34回生）、村山忍同窓会長（高14回生）、渡邊亮一事務局長（高22回）、坂田孝之八高東海同窓会会長（高18回）、熊本県大阪事務所、熊本県高校同窓会の各団体の皆様にもご臨席いただき開催いたしました。令和2年・令和3年は、新型コロナ禍のために開催が見送られましたので、3年ぶりの開催となりました。

イベントとして、声楽家本岩孝之氏（高34回生・岩本学校長の同級生・イワモト・モトイワコンビ?）のミニコンサートを行い、「帰れ八代（ソレント）へ」や「旅愁」などの美声は、会場の皆様に故郷と八高時代の記憶を蘇らせ、会場内を魅了しました。

新型コロナウイルスの関係もあったせいか、以前よりも参加者は減少しましたが、会員50名、来賓や熊本県出身者が20名の合計70名が集いました。

関西同窓会の役員会では、橋口敏昭相談役（高10回生・城南会会長・堺熊本県人会会長）、宮崎正郎相談役（高14回生・前会長・前関西熊本県人会連絡協議会会長）の「八高がやらんば、あかんばい！」との強い思いもあり、年明けから役員会を重ね、準備を続けてきましたので、総会を開催できたこと、また、皆様に楽しんでいただけたことをとてもうれしく思っています。

総会では、大川郁夫会長（高24回生）が、社会科教員の頃のお父様（大川英毅元校長）に幼年時代に連れて行かれた松江の蔦の絡まる八代高校旧校舎の池で溺れかけた思い出などのお話とともに、3代目新会長としての就任挨拶を行いました。また、岩本校長からは、現在の在校生の状況や進路をご報告いただきました。また、村山同窓会会長からは、各地区の同窓会の活動について等の報告がありました。

懇親会は、関西同窓会の最長老池田康昭顧問（高3回生）の乾杯のご発声で始まり、おいしいお料理を堪能していただきながら、終始和やかな懇談をおこなっていただき、同窓生の各回層間や、友好団体との親睦が深まりました。

最後には、校歌「道」を全員で合唱しました。世代を超えて、皆の心がひとつになる、とても素敵な時間でした。やはり、開催してよかったと役員一同感激しました。

暗い時代になっていますが、関西同窓会は元気です。元気は関西から発信したいと思います。

来年令和5年6月3日㈯も、同じ会場で開催予定です。同窓生の更なるご参加を、お待ちしています。

事務局長 新村 守（高49回卒）

東海同窓会

未来へ 八高東海同窓会

八代宮のすぐ近くから移転し、充実の併設型中高一貫校となった八代高校（八高）。学んだ頃の蔦の絡まる校舎やカラタチの垣根、友達や先生方がとても懐かしく、良き思い出ばかりが浮かんでくる。また八高は、立派な先輩方や後輩方を数多く輩出し、現在活躍中の方々も多々おられ誇らしい。

私の在学は半世紀以上前だが、望郷の思いに満ちる母校である。私は結婚して八代を離れた。子供が成長し記者職に。雑誌や新聞記事を数年。最終的な職場は小さな新聞社。ドイツ等の海外取材や、当時一大勢力だったスーパー各社の決算報告、各社トップの記者会見等を十数年。他にも仕事は多かったが高校時代のように楽しく、社会経験も得た。

だが、同窓会会報「道」への原稿には、さてどうしたらと迷った。私には、東海同窓会への貢献や実績が殆どない。そこで東海同窓会の中心的な方々にSOSを出した。坂田孝之会長、松田富博・岡田多美子両副会長、岩崎健作事務局長である。

驚いた。なんと、予想以上のご協力であった。テーマは「この頃思う事」。返信は丁寧かつ世相を反映し「会存続への会員の危機意識、ロシアとウクライナの戦争、後輩が増えない、コロナ禍での相談や対応への苦慮」等々。各々方の立場や意志、視野視点がある。

そして返信と共に届いたのは、故郷から「国際ロボット競技会　全国決勝大会」に出場する小中高生へのエールや、「全国県人会祭り」に東海同窓会からも参加等と、イベントへの前向きな姿勢と取り組み情報であった。温かい気遣いも記されていた。

東海同窓会への思いが膨らんだ。元々、東海同窓会は何事にも積極的。男女共に集い語らい、先輩後輩問わず明るく多様である。若者にも未入会の方にもオープン。設立後数年の若い会である。今後もきっと、未来へとポジティブに活動が続くことと確信している。

水本博子（高17回卒）

広島県同窓会

八高同窓生の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

広島県の同窓会も3年連続の中止となってしまいました。来年こそは同窓生の皆さんが楽しく集えることを願っています。

さて、昨年の同窓会報で、変わりゆく広島の姿をピックアップしてお伝えしましたが、今回はその続編として、今の広島の姿をご紹介します。

工事中の広島駅南口

【陸の玄関口 広島駅】

昨年もお伝えしましたが、JR広島駅では、市内電車が直接広島駅の2階部分へ乗り入れするための工事が進行中です。現在は、在来線側となる広島駅南口にあったターミナルビルが撤去され、市内電車が乗り入れる新たなターミナルビルの建設に向けて、工事が着々と進められています。

完成後は、新幹線で広島へ来られた方々が、雨に濡れることなく、市内中心部や原爆ドーム、更には宮島まで、市内電車で移動できるようになります。また、所要時間も短縮されます。完成は令和7（2025年）春の予定です。

なお、新幹線側の広島駅北口は、既に整備が済んでおり、新幹線を降りて改札口を出ると、たくさんの土産物店や飲食店が出迎えてくれます。

完成予想図

広島駅周辺は大きく変わろうとしていますが、その一方、私が広島に住み始めた昭和51（1976）年の頃にあった建物がほぼなくなってしまい、時の流れを強く感じざるを得ません。

【広島市中心部　サッカースタジアム】

広島には、野球、サッカー及び交響楽団、俗に「三大プロ」と言われるプロチームがあります。

そのうち、サッカーチームであるサンフレッチェ広島のホームグラウンドは、1994年に開催された広島アジア大会のメインスタジアムであった広島スタジアムです。しかし、市内中心部から遠いことや、もともと陸上競技場のため、グランドと観客席の距離が遠いことから、サッカー専用スタジアムの建設が長く議論されてきました。

そしてついに、広島城の近くにある中央公園広場がサッカースタジアムに生まれ変わることになりました。

現在は複数のクレーンが忙しく動いていますが、令和6（2024）年8月に供用開始予定となっています。新スタジアムは地上7階建てで、収容人数は約3万人。観客席とピッチの距離は8メートルで、臨場感にあふれるスタジアムとなります。

ここ2、3年のうちに広島の街は大きく変わります。是非、新しい広島に会いに来てください。ご案内もできますよ。お気軽にご連絡ください。

完成予想図2024年8月完成予定

広島県同窓会事務局 村田栄治（高28回卒）

大分同窓会

大分あれこれ

大分支部では、11月第1土曜日に例会を開いています。残念ながら、昨年は開催できませんでした。今年も悲観的です。参加者10名程度のこじんまりとした会ですが、ゆったりと楽しめる場であると思います。経済成長の波に乗って大分へ来ましたが、波の退いた後も以来40年、居残った結果で支部会長を当てがわれています。当時の同窓会は、もう少し参加者が多く、個性豊かな方も多数いらっしゃいました。同じ八代出身と言っても、お住まいの場所も年代も違いましたので、思いもよらない別の八代を発見することができました。

勤務地が郊外だったので、大分を代表する川（？）、大分川を南（熊本の方）へ横切って通っていたのですが、途中ちょっと不思議な光景があったのを覚えています。

写真の遠くに見える2つの山が互いに透けて見える様に見えませんか。通勤のたびに不思議に思っていたのですが、テレビの『ナニコレ珍百景』で紹介されているのをみて、他の人もそう思っていたのだなと納得した次第です。

単に、手前の第3の山がうまく重なって見える位置にあったと言うだけのことですが。

左側の山が、由布岳です。その麓に、湯布院温泉があり、大分川はそこの金鱗湖と言う水源から流れ出ています。その金鱗湖の端に小さな温泉（共同浴場）があって、柱に取り付けられた箱にいくらか入れると、誰でも入ることができました。驚いたことに当時は混浴でした、と思ったら、いまも当時のままで料金は200円だとか。

大分の車椅子マラソンは比較的に有名ですので、ご存じの方も多いと思います。県庁をスタートして西（宮崎の方）へ下るのですが、最初に渡る川が同じこの大分川です。市街地から、西へ行っても南へ行っても、左へ流れるこの川を横切る形になっていて、慣れるまではこれにも違和感がありました。これも、海の近くで川が大きく蛇行していることに思い至らなかったからだけの事です。最近の車椅子マラソンはコースが変わって、大分川と、もう1つ西にある川を横切って、海沿いに行ったり来たりする形になっています。そのため選手は、競技中に合計9回も橋を渡ることになりました。

大分には、湯布院の他に別府温泉もありますし、国東には由緒あるお寺や宇佐神宮、アフリカンサファリなど見るところがいろいろあります。もし、11月始めころに来県のご予定がありましたら、少し調整されて、大分の支部例会に参加されてみませんか。時間と場所は、事務局にメール（oita85@tsm.bbiq.jp）でお尋ね頂ければ大歓迎です。

草柳英一郎（高12回卒）

長崎地区同窓会

再会の日を楽しみに！

「長崎地区をはじめ各地区の会員の皆様方、元気でお過ごしだろうか？」まさか、昨年と同じ書き出しでこの原稿を書くとは思いもしなかった。この夏、長崎も過去の

感染者数を次々に更新。何かと不自由な毎日を強いられている。おかげで、地区同窓会も令和2年2月を最後に停止状態である。

「同窓会　今年もコロナで　どうしようかい？」といった心境である。毎年2月の定例会、今年はなんとか開催したいものである。

しかし、「コロナ禍で　誰が誰だか　マスク顔」では、楽しみも半減する。せっかく開催するのならアクリル板もマスクもなしで、旧交を深めたいものである。もちろん、アルコールは、消毒用ではなく、のど越しのいいやつで！

9月開通の長崎新幹線

スタジアムシティ予想図

ところで、昨年紹介した西九州（長崎）新幹線が9月に開通した。開通日の指定席は、わずか10秒で完売したとのこと。八代との距離もさらに縮まった。また、隣接地には、来年度の完成を目指した「長崎スタジアムシティ」の建設が着々と進められている。Vファーレン長崎、ヴェルカ長崎の本拠地となる他、オフィスビルには、長崎大学情報科学データ分野の大学院が設置されるという。

時代は、着実に進化・進歩している。しかし、いかに時代が移り変わろうとも、若き青春時代を過ごした八高の思い出は、失せることはない。その思い出を語り合える同窓会が再度開催されることを、楽しみに待つことにしよう！

長崎地区同窓会事務局 徳永哲郎（高27回卒）

学年活動紹介

高10回卒　昭和33年卒

神戸の集い「あなたの笑顔に会いたくて」

例年関西三会は、宿泊付きのバスツアーで懇親を深めてきたが、メンバーの高齢化に伴い、今年からは、京阪神の高層ホテルでの昼食会に内容を替える。

新シリーズ「あなたの笑顔に会いたくて」の第1回会場は、令和4年5月20日㈮。新幹線新神戸駅に隣接するANAクラウンプラザホテル神戸。10回生8名とゲスト4名の計12名で中華料理を賞味しながら、カラタチの生垣とツタのからまる松江城校舎で学んだ3年間の八高時代の日々を、懐かしく楽しく語り合う。

会食後は、ホテルの玄関からロープウェイで濃緑の布引山へ。山頂にはみどりの風が流れ、眼下には神戸の市街地と大阪湾の大パノラマ。幾何学模様の緑の造形美が、仲良し10回生を歓迎している。来年も「あなたの笑顔に会いたくて」の願いから、早急に第2回会場の選定作業にとりかかる。

＊春わかば　みなと神戸の　景新た　文責：橋口敏昭

☎090-5674-6461

高39回卒　昭和62年卒

大同窓会開催中止の経緯について

早川智浩

本年度は私たち39回卒が幹事学年として企画・運営する予定でした。しかしながら、コロナウイルス感染症の影響により、ひとつ上の先輩が幹事学年となった大同窓会が2年連続中止となり、開催の見通しが立たない状況が続いていました。その中で回ってきた幹事学年でしたが、ぎりぎりまで結論を先送りしたものの安全に開催する方向性が見出せずにいました。

正式ではないですが2019年6月から準備した企画は、以下の様になっていました。

記念講演：NHK演出家の田中正くん、パナソニックコネクト㈱執行役員常務の山口有希子さん。ネット回線で接続し、会場スクリーンに投影することを計画。

ステージ：川﨑由紀子さんのグループによるオペラの披露。

展示即売：陶芸家の福島万希子さん作品。

講演者等の準備を考えると、ある程度の時点で開催するかしないのか決断しないといけないので、開催可否の方向性を3月末に決めることを同窓会事務局に伝えていました。

2022年3月22日、同窓会役員の方との意見交換を実施したところ、大同窓会は開催したいが、飲食は厳しい。コンサートを開催して入場料を徴収し運営費に充てるのはどうか。懇親会なしなら中止でよいのではないか。など、様々な意見が出ました。その意見を基に学年の主なクラス幹事が集まり、4月16日に意見集約を行いました。

例年通りの懇親会開催、Web開催、Web+懇親会なしのリアル開催、中止など幾つかのパターンをつくり、開催の実現性、問題点を話し合ったところ、同窓会＝懇親会ではないのか、Web開催することは可能だが、運営費をどう徴収するのか、高齢の方はネットに接続することが難しいのではないのかと、多くの問題があり最終的に中止という結論に至りました。

楽しみにされていた同窓生の皆さんには本当に申し訳なく思いましたが、このような経緯で苦渋の決断となりましたことをご報告させていただきます。

八高史に見る「〝文武両道〟への歩み」 中編

昭和20年8月「敗戦」を迎えた日本は、連合国軍による統治が始まり、ポツダム宣言に基づいた「軍国主義の除去」「民主化政策」が実施されることになりました。同年10月「学校教育民主化」に沿った改革として、中等教育における男女の機会均等、教育内容の平準化の方向が示されました。しかし、占領されてしまった敗北感と先が見えない不安感の中、この戦後教育を国民はどう受け止めていたのでしょう。

改革により教育システムが変わり、学校統合などが進み、名称も新たになり…ようやく当校の「文武両道」も動き始めます。

まずは、

八代高等女学校（昭和22年）

陸上競技部　4年・田河ヤス子は、全九州陸上競技大会に出場。

軟式庭球部　10月の第2回石川県金沢国体に3組6人出場も北海道と対戦、敗れる。

郷土研究部　阿蘇や八代各所の見学・調査・研究など。

科学部　気象観測を中心に活動。

文芸部　演劇・人形劇などの上演、弁論大会や県下女子学芸大会などへ出場。部誌「真美」の発行昭和22年当時の女学生の声を載せている。～男女共学への興味、学校への批評、政治や映画のこと～

ソフトボール城南高女大会優勝（昭和22年7月22日）

昭和23年5月、学制改革により、八代中学校は「八代高等学校」に、八代高等女学校は「八代女子高等学校」へ。そして昭和24年4月1日、両校は統合し男女共学の「八代高等学校」となりました。

統合1カ月前の3月5日、文芸部は、戦前から続けられた部誌「真美」第三号を〝最後の号〟として発行！

◎読書調査　◎学校議会に就いて
◎夏季文芸講座　◎演劇部だより
◎映画部より　◎被服部便り
◎陸上部雑感
（女高1回、昭和24年3月卒業）

「真美」第三号の表紙
昭和24年3月5日発行

八代高等学校誕生後の校友会

「校友会」とは、クラブ活動のこと。旧八代中学の「学友会」を引き継ぐ形で

23年度が、スタート！

文化部…新聞部、文芸部、講演部、芸能部、自然科学部、社会科学部、図書部、エスペラント部

運動部…陸上競技部、体操部、野球部、排球部、籠球部、ラグビー部、庭球部、卓球部、相撲部、蹴球部、水泳部、登山部

24年度に新たに発足。

文化部…被服研究部、栄養研究部、数学研究部、語学研究部、園芸部、自然科学部から「気象天文研究部」「物理研究部」「科学雑誌輪読会」「化学研究部」「自然同好会」が、芸能部からは「書道部」「美術部」「音楽部」「映画部」「演劇部」が独立。

運動部…ソフトボール部が新設。

25年度

文化部…写真部、ESS、華道部、ドイツ語研究部が発足。

運動部…駅伝部、ハンドボール部が発足。年度途中から柔道部活動再開。

「八代高校新聞」創刊号
（昭和23年7月1日）

28年度…空手部が発足。

29年度…剣道部が活動再開。

30年代の部・同好会の新設・廃部

34年度…漕艇（ボート部）・自動車部新設

35年度…ドイツ語部と送球部が休部

36年度…JRC（青少年赤十字）部新設、ドイツ語部、送球部廃部、ソフトボール部、弁論部休部

37年度…ソフトボール部廃部

38年度…弁論部廃部、PFC同好会結成

40年度…弓道部・応援部新設、社会研究同好会結成

水泳・庭球部の全国制覇

新制高校でスタートし「全国の頂点に立つ」という快挙が続く！

●水泳部　佐藤好助の活躍

昭和34年～35年の100および300メートルバタフライの国体、インターハイなどでの優勝。

本人入学の昭和33年当時、本校にプールはなく、代陽小や第一中さらに三楽酒造（現メルシャン）などのプールを借用して…という不便な環境での水泳部練習でした。彼は中学時代からバタフライに非凡な才能を持っており顧問の児玉富太郎教諭らの指導のもと、着々と力をつけ

創立期の各部研究雑誌

佐藤好助の国体優勝（昭和34年）

ていきました。

2年生の昭和34年8月、浜松における第27回インターハイでのバタフライ優勝。このことで、彼の名前が全国に知られるようになりました。

そして県大会、九州大会で同種目の並み居る強豪を押さえ、2分25秒5の高校新記録を樹立し、一躍ローマオリンピックの有力候補者の一人として注目。代表選考を兼ねた翌年の大会では上位入賞ならず、その夢は消えました。

しかし、35年8月の国体やインターハイでは、バタフライ200メートル、100メートルともに高校新記録で優勝し、本校は全国6位に。さらに同年10月の熊本国体では、驚異的な記録を樹立し、熊本県の総合優勝に大きく貢献。

卒業後、八幡製鉄（現新日鉄）に入社、昭和39年、東京オリンピックに出場。以後後進の指導に当たっています。

● 庭球部の全国制覇

本校発足以来のこの部、明治37年、本校初の対外試合として五高（熊大）主催竜南庭球大会に出場、熊中などを破り済々黌を倒して優勝！いきなり八代中学の名を全九州に轟かし、その後も成績を残し…この庭球部遺伝子は健在で、昭和になっても目覚ましい活躍を見せることとなりました。

昭和24年度から32年度までは毎年、国体または個人戦で熊本県代表として国体やインターハイなどに出場、34年度インターハイでは、大河内・宮本組が6回戦まで勝ち進み、全国13位に。

35年県大会では男子団体戦、個人戦、女子個人戦を制し、徳島市のインターハイへの出場が決まり、監督・小田俊一教諭はじめ、男子の法華津・沢田組、田中・出田組、富永・渡辺靖昭組、女子の津国・渡瀬組のメンバーで乗り込みました。

7月30開会式後に試合が始まり、8月1日の男子団体戦、2回戦で岡山南高校を、3回戦では土佐高校を、4回戦では鹿児島の甲南高校を、準決勝では徳島の平商業高校を下し決勝戦へ。相手は地元・徳島工業高校、各組の激しいスコアの取り合いで重圧をはね退け、ポイント〝2－1〟で本校が優勝旗を手にすることができました。

全国制覇後、庭球部の凱旋八代駅（昭和35年）

これは当時、九州内でも初の偉業となりました。

● ボート部の活躍

40年代の運動クラブの全国大会へ進出したのは、庭球部、弓道部、陸上部、山岳部、水泳部、バドミントン部などありますが、特に顕著な活躍をしたボート部でした。42年から50年まで、47年を除いて毎年のように全国出場を果たしています。特に50年は九州大会に優勝しての全国大会出場でした。

ボート部練習風景（萩原橋下）（昭和44年頃）

● 美術部の活躍

40年代始め、文化部の中で最も目立つ活躍をしたのは美術部でした。40年度、第9回西日本読書活動コンクール・感想画の部で、1年生内村明志が最優秀賞、他に優秀賞4名、優良賞2名、佳作3名と大量入賞。審査員から「八高派は心象表現が素晴らしい」と評価をいただき、また韓国で開かれた第5回世界教育美術展に於いても卒業生1人を含む38名が入賞し奨励賞を受賞。そして第11回全日本学生美術展では、2年山中祐一が推奨に、他3名が佳作入賞。

さらに41年度、第10回西日本読書活動コンクール・読書感想画の部で、3年川添美夜子、2年林義治、1年大野博文が最優秀賞、優秀賞2名、優良賞1名、佳作3名と多数の受賞者を出す好成績となりました。

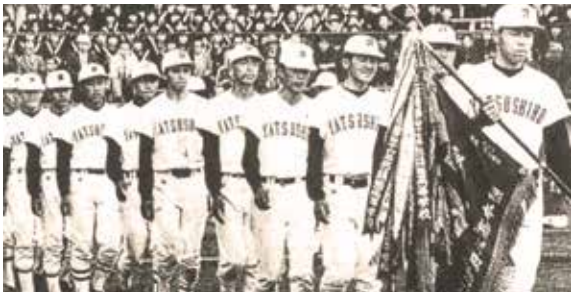
顧問の正木次郎教諭は「今年は（中略）1年・2年・3年とも最優秀賞をとり西日本一になったのはコンクール始まって以来の好成績で、これで連続9回最優秀賞を獲得できてうれしいことである。」と語っています。

● 野球部の活躍

ここで特筆すべきは、55年春の九州大会準優勝に夏の県大会準優勝、それ以前の52年秋、53年春にも好投手釜を擁し決勝、準決勝進出を果たしています。

53年には、4月の城南大会に優勝し、5月のRKK旗と6月のNHK旗大会ともに初出場を果たし、県球界の注目を浴び始めてきました。期待された夏の大会はベスト8に進出も、第一工業に惜敗。53年秋、稲岡投手の踏んばりと1年生秋山、浪本らの活躍で熊本工、済々黌を連破し準々決勝に進出し注目されました。

55年春の第66回九州高校野球大会熊本県大会は、本校野球部にとって創部以来80年目にして初の県大会優勝の栄誉を手にすることができました。


春の県大会優勝（先頭は秋山）（昭和55年4月）

当時のボート部顧問・和田健一郎教諭は「一般に普通高校のクラブ活動では、学習との両立が最も大きな問題（中略）新人部員募集の際、ボート部では〝ボートを漕いで大学に行こう〟というユニークな言葉で勧誘していた…」と語っていました。本校のさらなる快進撃は続きます。来年の「道」15号をお待ちください。

八高家族の物語
「父から私そして子供たちへ」八高サッカー三代記
八高サッカー部と歩んだ家族の物語 ～宮田宝一さんご一家～

前列右から2番目　宮田宝吉氏

今年生きていれば90歳になる父（宝吉）（79歳で死去）は昭和7年生まれ、八高第3回卒業、八高サッカー部の創生期に青春時代を過ごした。弟の富男は昭和九年生まれ、彼も70代で死去、兄の後を継ぐように八高サッカー部の2年後輩としてまた創生期を盛り上げた。弟の時代はサッカー部の成績が優秀で国体に出場したそうである。唯一八高サッカー部で国体に行ったチームである。祖母が「わたしも応援についていった」とよく話していた。兄宝吉は大学でもサッカーを続けていたらしくその後も、いや死ぬまでサッカーとは縁が続いていたようだ。八高ＯＢクラブのシニアでもずっと活動し、八代サッカー協会の会長もしていた。人生サッカーと共に歩んだといっても過言ではない。

私宝一は八高28回卒業、太田郷小学校でサッカーを始め、二中、八高とサッカーづけの学校生活だった。八高サッカー部の思い出はちょっと書くことが憚られることばかりだが、一番の思い出は夏休みの合宿時ＯＢの先輩方やコーチに脱走者がでるほど鍛われた。また、合宿の打ち上げと称して先輩たちの飲み残しの酒を飲んで酔っ払って映画を見に行ったりした。その上、私の不祥事がきっかけで次の大会が出場停止になり、後輩たちに多大なる迷惑をかけたこともある。（これ以上は生活指導上の問題多々なので割愛させていただく）サッカーの成績は優秀とまではいかなかったが青春を充分謳歌していた。私の3つ年下の弟信彦も同様に太田郷、二中、八高とサッカーを続けて、父と同じように大人になってからも八高ＯＢクラブで活動し、八代サッカー協会の理事、八高サッカー部ＯＢ会の副会長などを務め、今でもサッカーとの縁は続いているようだ。

3列目右から2番目　宮田宝一氏

長男孔明は八高第59回卒業、私と同じように小、中、高とサッカーを続け八高サッカー部時代は3年生で1人秋の選手権大会まで選手として残り、受験勉強そっちのけで頑張っていた。サッカーも成績はいまいちだったが、サッカーを頑張っていたからこそどうにか学校生活を続けられていたのだと親としては思う。私たちの頃とは違って八高の自由な校風があまりなくなり、受験と校則に縛られたちょっときつい高校生活だったようだ。今は、太田郷校区のサッカークラブのコーチとして子どもたちの指導に熱心に取り組んでい

後列左から2番目キーパー　長男孔明氏

る。彼もサッカーとの縁は続いているようである。

次男礼智も兄と同じような道を歩む。二中のときは県の大会で優勝するという強豪チームだった。そして、当たり前のように八高サッカー部に入った1年生の時は専門外の先生と外部コーチが担当で、熱心に指導をしていただいたが、サッカー部の素行が悪いという噂が広まり、ハラハラする面もあった（自分たちの高校時代の生活態度に比べれば「へ」のようなものだが）2年生から専門の熱血先生が大津高校から来られて見違えるようにサッカーに燃えだした高校総体では済々黌高校などに勝利して、ベスト8まで進むことができた。今はサッカーとは特にかかわりはないが、仲の良い友達はサッカー部時代の面々でずっとその縁は続いている。

前列中央キーパー　次男礼智氏

親子三代に渡り、しかも兄弟で八高サッカー部と関わってきたのはかなり珍しいことだと思うし、誇りでもある。ただ、親子三代に渡り八高でサッカーができるというのもそれなりの環境が必要であったと思う。私の会社は「㈱宮田宝三郎商店」（建設土木資材の卸し）で1910年創立、今年で112周年を迎える。そういう土台があってこそ親子三代で八高サッカー部を続けてこられたと思っている。

現在3歳になる孫がいるが、あと十数年後今度は八高サッカー部四代記をまた書けたらなあと楽しみにしている。

※なにしろ50年ぐらい前の話ですので曖昧な記憶をたどりながら、自分の思いで一気に書きましたので誤っている部分もあるかもしれません。その辺のところよろしくお願いします。

宮田宝一（第28回卒）

八高の思い出 我が恩師編

小田俊一先生 通称「ゲタ」さんの想い出

眞木誠司さん（高18回卒）

今はどうか知らないが、60年も前の八高には本名よりも、あだ名の方が通りが良い先生が何人もいらっしゃった。生徒間の会話でも「シャーシャーの漢文は、あん先生が目ば閉じて授業するもんだけん分かるまいと思い内職しよったら見つけられてえらいおごられた」とか「ゲタの現代国語で、あん先生は1分間に何回…ネって言うか時計ば見ながら数えてみたバイ」というようなやりとりだった。

シャーシャーとは中村久人先生、「ゲタ」とは今回話題にする小田俊一先生のこと。「八高百年史」637ページにも古島団平先生が寄稿された「教師数え歌」の中に「十四　四角いつらは下駄づらよ巡査につかまるがたまにきず」と小田先生の事が紹介されている。先生が巡査につかまったことがあるのか、それとも四角いでかい顔ゆえに警官から職務質問でもよくされたのかは今となっては分からない。

余談になるが「シャーシャー」というあだ名は、この「校史余話」によると「スリッパの音がシャーシャーとした」ところからつけられたあだ名という事になっている。昭和38年に入学した僕たちの頃には、先生方のあだ名は既に定着しており、その由来について考える、あるいは調査するなんてことはしなかった。「シャーシャーはシャーシャー」であり「ゲタはゲタ」であった。

実のところ「シャーシャー」というあだ名は中村先生が漢文の授業で目を閉じ、実に朗々とした声で文章を読み下されるのを聞いて「まるで夏にセミがシャーシャーと鳴く風情」がありそんなところから来ているものとばかり今の今まで思っていた。シャーシャーと右の耳から入りそっくりそのまま左の耳から抜けて行っていた。恥いるのみ。勉強が足りなかった。漢文が分からなかった筈だ。

さて小田先生。この数年コロナ禍で八代での毎年の大同窓会も開催されず、無聊をかこっているが、数年前までは昔の先生方も顔を出されて賑やかに開催されていた。10年くらい前その大同窓会で小田先生と近い席に僕が座る事になった。僕は小田先生とは課外で現代国語の授業を受けたことはあったけれど、担任になっていただいたことも無く、そんなに先生の記憶に残る生徒ではなかったと思っていたが、先生は「おい真木君、元気かい?」と声をおかけ下さり「俺も大分衰えたよ。齢をとったなあ。この頃はよく救急車に乗っとたい。もう7回ばかり乗ったかなあ」とのお話。

小田俊一先生

ビールを飲みながらひょうひょう淡々と愉快そうに話される。当時で80歳を超えていらっしゃったように記憶している。会話を思い出してみよう。

「この頃心臓の衰えて来てなあ。それに頭もいかん。夜、寝ていると急に具合の悪うなって救急車を呼ぶ。僕の家は松橋だから熊本市内の病院に救急車で運ばれるんだが、家を出る頃は意識は無い。そのまま天国行きかと思うんだが、川尻の橋を渡る頃になると決まって救急車のサイレンの音が聞こえて来て意識が戻ってくる。ありゃあ、俺は未だ生きっとるばい。こんな事が6、7回あったなあ。その内あっちに行ってこっちには帰って来られんようになるどなあ」

「先生、齢をとればそぎゃんもんですばい。色々悩んだところでしょんなか。まあ今晩は飲みなっせえ」

当時はこっちも60歳過ぎ。まだまだ若かった。という事は他人事だった。小田先生のお気持ちは察することもなかった。

僕と小田先生との出会いは恐らく昭和38年。その頃の課外授業での事だったろう。小柄の先生だったけれど首から上はどっしりとした四角い顔が乗っていた。先輩方がつけたあだ名でこれほど分かり易いものは他になかったと思われる。先生はいつも明るく、ニコニコ笑顔が絶えることはなかった。

「僕のあだ名はゲタです」と自分の方から満面の笑みで、いかにも誇らしそうに「ゲタ」という愛称を教室の皆に披露された。それから授業が始まったのだが僕の第一印象は、先生の語尾が必ず「…ッネ」という念を押す助詞で終わることだった。例えば「この作者の言いたかったことはこの言葉ですよッネ」「皆さん分かりますよッネ」という具合だ。「一体この先生は1分間にどれだけ…ッネを言われるだろう」と興味が湧いて冒頭での行為に及んだ事だった。結果の数字は覚えていないが暫く生徒間の話題にはなった。

そんな先生も八高史に残る快挙もされている。それは昭和35年7月末、徳島県で開催されたインターハイ、庭球の男子団体戦の部で全国優勝をされている。先生は選手ではなく、一番偉い監督としてこの大会に臨まれ、見事優勝を勝ちとられた。この時の詳細は先生自身の手によって「八高百年史」にも掲載されているのでここでは触れない。しかしこれを読むと応援の大切さが良く分かる。この時の決勝戦の相手は地元の徳島工業だから相手方の応援は物凄い。対するこちらは少数で、意気消沈も無理もない。それでも東京出張を1日早目に繰り上げて駆けつけた松田　猛教頭等の応援で小田監督も生気を取り戻し快挙につなげている。

先生はスポーツは好きで色々やったけれど、専門でやったことは無い。当時の教え子に聞いてみると「元々先生は庭球も素人で、やったことはなかった。しかし顧問になられて少しずつ見よう見まねで庭球にも手を出され後ではそこそこプレーしていた」との事。その後の庭球部は部員も少数でなかなか思うような成績を上げられなかったが、先生の跡継ぎらしき人は現れている。全国制覇の時の中心選手だった出田　誠哉さんの弟、誠二さん（17回卒）がコーチをしているテニススクールでの教え子が中学生、高校生の部、両方とも全国No1になっている。

先生らしいエピソード。昭和32―33年頃の正月。庭球部も初練習をして新年会を開いていた。当時あった同窓会館で恒例庭球部新年会。先生も当然参加。ところが宴会も盛り上がり、酒が出始めた。先生の立場としてはこれは御法度。当然戒めねばならない。しかし先生は生徒と一緒に飲まれ、これが後日白日の下にさらされ、当時の校長から大目玉を食ったという。先生も若かったのだろう。一方で先生は叱られながらも部員はかばい、当時の主将は代表して叱られたらしいが「退学だ、停学だ」というところまでは行かなかった。先生も大目玉はくらったがそれ以上の処分はくらわなかった。当時の大らかさが伝わってくる話だが僕もこれに似た経験がある。

3年の卒業間近、同級生の親友の家に3、4人が集まった。どんな成り行きからかもう忘れてしまったがサントリーかニッカだかのポケットびんを皆で飲み始め、罪の意識も無かったのか誰かがこの光景を写真に撮った。ポーズは僕がビンの入っていた箱を手に持ってもう一方の手でウィスキーを飲んでいる。これがどういう経路を辿ってか担任の川上先生の手に渡ったからたまらない。川上先生は僕を呼び出し件の写真を見せながら、ひとしきり説教。当時そんな罪悪感もなかった僕もこれには参った経験がある。これが昭和40年頃の話だから小田先生の庭球部事件の頃はそれより7、8年以前の事でアルコールへの禁忌の念もそれほどではなかった事が知れる。しかし教師の立場としては困られたことだろう。こんなことも現実にあったのだ。

5年くらい前の恒例夏の八高大同窓会。皆賑やかにやっているが小田先生のお顔は見えない。庭球部に所属していた同級生の女の子たちに「おい、小田先生は御存命か？」と聞いてみると「つい先ごろお亡くなりになったという事を聞いたよ」との返事。「ああ、とうとう川尻の橋の上でこっちに帰って来られず向こう側にはって行かれたばいな」の思いを深くした。

この稿を起こすにあたり元の庭球部の方々にお話を聞かせていただいたが「今時の監督やコーチは現役時代に大活躍した人たちが尊敬される。先生はそれとは無縁。技術の事はさておいて、僕たちが庭球をやり易いようには骨を折って下さった。卒業して、松橋の先生のご自宅を訪ね、御馳走していただいた事を今でも忘れられない」と異口同音に話された。

既に先生は生死を超越されておられる観があった。あちら側に行かれて何をされていることだろう。「ゲタ」もこの頃では履く人も少なくなり過去の遺物になりかかっているが当時はゲタは生活に密着していた。そう言えば僕も生徒自治会長として「ゲタ履きを再解禁してくれ」と方々から談じ込まれ弱った時もあった。昭和23年から55年まで実に33年間も八代高校に在職。こんな「ゲタ」先生も八高にはいたのである。そしてシャーシャーを初め個性的なあだ名を有した先生方の集まりこそが一時「八代大学」と言われたほどの盛況を八代高校にもたらした。

戯画で描かれた当時の時間割（S34年）

著書紹介

耕治人にせまる

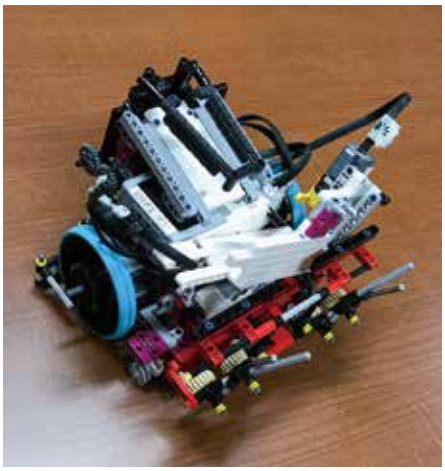
八代中に4年まで在籍した作家・耕治人ほど悲惨で、波乱の人生を送った人はいない。若くして両親と兄妹の5人を失った。作家となっても文壇になじまず、ただ身辺に題材を求めた私小説を貫いた。孤高と貧困の最晩年、妻の介護と、自らの死と向き合いながら書いた短編三部作は、珠玉の老人文学作品と評価された。耕が人生の転機となったのは母校校歌の作詞である。佐渡滋氏（第14回卒）は、校歌の詞を読みほぐし、推論し「校歌の繰り返し部分は、後に書き加えられた」との結論に行き着いた。氏は『耕治人の想念と校歌の運気』と題する評論にまとめ、令和3年度の熊本県民文芸賞「評論・ノンフィクション部門」で第一席を受賞した。受賞作のほか校歌作曲者の林光の音楽活動と生涯など四編を収載した小冊子を出版。「校歌は八代への憧憬を抱きつづけた作家と、意欲的な新進作曲家のコラボによって生まれた名曲」と結んでいる。作品集は八代高校と同窓会事務局に計四百部寄贈された。

ロボット競技大会

2022 WRO ドイツ国際大会出場

八代高校2年の泉 徳浩君（所属チームMRC：）が8月28日、国内最大級ロボット競技会WROJapanの全国大会（浜松）決勝高校生部門で準優勝し、日本代表メンバーに選出され、ドイツ（ドルトムント）での国際大会（11月17日～19日）に出場します。

泉君は宮嶋財団を拠点とするMRC（みやじまロボットクラブ）で小学生5年生からロボット競技に参加しています。全国大会では各予選会を勝ち抜いた30チームとの競技でした。全国出場のためには基準点があり、各チームがレベルが高く、高校課題は難易度も高く、追加ルールにより全チームが苦戦しました。日本代表を経験したチームでさえ失敗し、上位脱落が続く中、泉君のチームは持ち前の技術力を活かし、準優勝を果たすことができました。



「WRO 2022 JAPAN 決勝大会in浜松」観戦記

浜松アリーナで開催される全国大会に八代の小・中・高生の代表が参加すると聞き応援に行きました。

これまで見た事のないロボットの分野で、子供達が自分達の自主性のもと汗を流して最後まで頑張っている姿を見、また保護者から子供の興味を活かし伸ばして来られたことをお聞きして大変感動しました。将来は現在学んでいることをさらに発展させ、大学（院）で研究して世の中に役立つための人材育成をされている活動がとても素晴らしい事だと実感した1日でした。

参加の皆さん感動をありがとう!!

内山（旧制木下）千鶴子（高14回卒）

「2020年7月豪雨を乗り越えて」坂本町の災害復興への八高同窓生の取り組み

2020年の7月豪雨では坂本町を含め球磨川流域で未曾有の水害に見舞われました。崖崩れや河川の氾濫など道や鉄道は破壊され多くの住宅も流されてしまい尊い人命も失われました。あれから2年。被害が酷かった坂本支所周辺も更地になり道路や住宅地の整備が進む状況になりました。八代市役所で坂本町の復興事業に取り組んでいる八高の同窓生たちを取材しました。

復興整備課
井上 真希（高73回卒）

私は令和4年4月1日より八代市役所に勤務しています。市役所勤務を志望したのは、高校1年生の時のインターンシップで八代市役所での仕事を体験した事と、インターアクトクラブというボランティアクラブに所属し、市内のボランティア活動に携わったことがきっかけです。

インターンシップではイベント推進課でくま川祭り、全国花火大会の準備に携わらせて頂きました。市民の方はもちろん市外の方にも楽しくそして安心して参加して頂けるような祭り事の開催に向けて取り組んでいらっしゃいました。私達が毎年八代で楽しい想い出が作れるのもこうした職員の方々の地域への熱い思いの上に成り立っているのだと実感しました。

また、インターアクトクラブでは地域の清掃活動を中心に市民の方々との関わりを深めました。豪雨災害で被災された方々が必要とする足りない物資を集める活動や仮設住宅での「緑のカーテンボランティア」活動にも参加させて頂きました。被災された方々は先の見えない不安のなか、今日をそして一日一日を生きてらっしゃいました。被災された方の体験や声を身近で聞かせて頂き、お一人お一人にとっての平穏な日常を取り戻すべく、早い復興を強く願わずにはいられませんでした。同時に私に何ができるのかを考える日々でもありました。

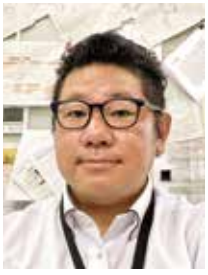
そして4月1日復興整備課に配属となり各課と連携を取りながら坂本町の皆さんの思いを形にすべくそれぞれの地区での話し合いに参加し、具体的な生活再建に向け職員一丸となり取り組んでいます。この甚大な災害を乗り越え、よりよい坂本の「創造的復興」を目指し、住民の皆様と一緒に作った「復興まちづくり計画」の実現へ向け歩み出しています。

令和4年7月3日坂本中学校体育館にて豪雨災害で犠牲になられた方の追悼式が開催されました。豪雨から2年、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、豪雨災害を記憶にとどめ、後世に伝えていくことも私達の努めだと誓いました。

下水道総務課（当時危機管理課）
工藤 洋之（高44回卒）

早朝の大雨特別警報を受けて出勤すると、消防署への電話がパンクしていたため、危機管理課の電話は矢継ぎ早になり続けていました。内容は救助や増水の状況等の電話だったため、情報の取りまとめ・整理を進め、状況把握に努めました。

災害復旧課
吉村 真一（高46回卒）



被災した坂本地域の施設（道路・河川・農地等・林道）の災害復旧工事を行う災害復旧課に所属し2年目となります。山間地の厳しい現場条件により苦戦もありますが、球磨川流域の美しい景観に癒されながら使命感を持って取り組んでいるところです。

復興整備課
松本 祐介（高47回卒）

令和2年7月4日の記録的豪雨による災害からの創造的復興を推進するため、1か月後の8月4日に新設された部署に勤務しています。様々な業種で活躍されている八代高校の先輩後輩の皆様とも連携し、一日も早い復興へ向け、全力で取り組んでいます。

写真／八代市提供

坂本橋（仮橋）

災害復興住宅起工式

坂本ふるさと おどんが祭り

頑張ってます

八代から世界へ

熊本県文化談話会世話人
松島寿市さん（高15回卒）

イラストや漫画を本格的に描き始めたのは、3年7組の担任であった竹内頼夫先生が八代労音の機関紙に発表の場を提供して頂いてからです。昭和44年熊本市の画廊喫茶店で個展を行った時、熊本に行けない後輩達の為に見せてほしいと美術の正木希明先生が母校で八高展を開催して頂きました。

その後、個展は熊日画廊・熊本県立美術館及びニューヨークのセーラムギャラリーで開催しました。

その間、日本漫画家協会に所属して、熊日新聞・読売新聞等で漫画やイラストを長期間連載しました。

八代通町郵便局を退職後、念願であった海外の国際漫画展にチャレンジを始めました。

2年間は落選ばかりでしたがグローバルスタンダードに合った作品を出品しはじめて韓国国際漫画展に入選し、その後憧れの久里洋二が活躍したベルギー・クノックヘイスト国際漫画祭及びトルコ国際漫画展に入選し韓国世宗国際漫画展で優秀作品賞を受賞して海外漫画展10年連続入賞したのを一区切りとして休止し、次は夢のある絵本の創作に専念する事にしました。

まず絵本のグローバルスタンダードを研究する為外国の絵本を取り寄せ、描きはじめました。第1作目は地元八代の民話・彦一とんち話や妙見祭の亀蛇を主人公とした絵本としました。ストーリーは天狗がいじわるをして大雨を降らせ、彦一や亀蛇達をズブぬれにしてしまうと亀蛇が怒って天狗をどなりつけ、天狗が悪かったと謝罪する。すると彦一も亀蛇もニコニコとして許し他の動物達と仲良くなるというもので、いじめをやめて許し合う関係になろうというテーマです。

Last Sushi Supper (2014)

紙芝居にして孫達や図書館の紙芝居で見てもらいその反応を参考にしながら描き直して絵本に仕上げて行きました。

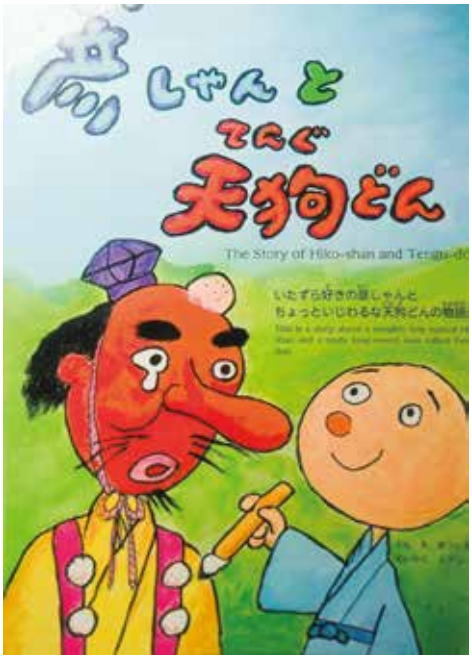
『えほん大賞』に出品した関係で東京の出版社から出版を要請されましたが、県内配付を優先しようと熊日出版から発刊する事にしました。

八代の子供達に彦一とんち話や妙見祭を通して八代の文化を再認識してもらい、もっと愛着と誇りをもってもらおうと、市内の小学校、幼稚園、保育園に配付し活用して頂ける為に100冊・八代市役所に寄贈しました。

熊日出版から発行したメリットか熊日新聞に写真入りで『彦しゃんと天狗どん』の絵本の記事を大きく掲載して頂き、その翌日はNHKの昼のニュースと夕方のクマロクで放送して頂いた効果か1ヶ月で完売する事が出来ました。

その後熊日出版から200冊増冊しました。

次回作はグローバルなテーマの作品で漫画の様に世界の絵本展で入賞出来る様、子供達に夢や愛のある絵本を描き続けたいと思っています。



出版した小説に予想外の反響

村林孝彦さん（高14回卒）

老いの道楽というか、この世への置き土産というか、今年の5月、「本日も好日なり」（熊日出版）と題する単行本を上梓しました。

内容は、古希からの老後を明るく粋に老けようと、男女10人の高校同級生が《粋老会》なる仲良しクラブを結成。折々に集まっては花見会や忘年会、時には旅行に出かけて交歓する話で、同級生同士の軽妙かつユーモア溢れる会話がキモ。テーマは認知症、脳トレ、振り込め詐欺、大谷翔平の活躍、新型コロナ禍、はてはオナラ事件や懐かしいバナナのたたき売りなど多様多彩です。

この作品は、八高11回卒の山田章則先生（2018年没）が創刊された文芸誌《木綿葉（ゆうは）》に投稿した全14話をまとめたもので、連載当時から同人の皆さんにはそこそこの評価をいただいていたんですが、大向こうの皆さんがどう読まれるかは心配でした。というのも、実は5年前に「夕照（ゆうしょう）」という小説を文藝春秋社（企画出版部）から出したのですが、思ったほどの反響がありませんでした。私としては自信作だったのですが、70歳のジジイが20代の中国娘と心を通わす話が「不届きな所業」と反感を買ったようなのです。（へへッ）

今回の「本日もーー」は違いました。身近な話題で、しかも滑稽仕立てだったため、「おもしろい」「笑った」「粋老会に入りたい」といった感想の手紙、電話、メールが約百本は届きました。友人が「交流があるから」と送りつけたのですが、あの直木賞作家の出久根達郎さんからも自筆の葉書が来ました。「楽しく拝読しました。『デカメロン』を思いだしました。ますますのご健筆を」と認めてありました。お礼を書いたら、「お礼状をたまわり恐縮しております。ポチポチお書き下さい。持ち味のユーモアとナンセンスはお忘れなく」と返信が来て、またまた驚くやら恐縮したりでした。

拙著は熊本県内の主要書店およびアマゾンで手に入ります。退屈させません。お読みいただければ幸甚です。なお、文芸サークル「木綿葉の会」は現在、開豊さん（八高25回卒）が代表兼編集人として頑張っています。同窓会の皆さんの入会（同人会員・賛助会員）を待っています。問い合わせは、開さん（090-9493-5140）まで。

第44回 熊本県民文芸賞 小説「祈る石」が「一席」に

熊本県文化懇話会と県文化協会が県民を対象に毎年募集しているコンクールに「熊本県民文芸賞」というのがあります。県芸術文化祭の一環で、文学的才能の育成を図り、地域文化の振興に資することを目的に催されているものです。44回目の今年、初めて応募したところ、私の小説「祈る石」がグランプリの「一席」に選ばれました。

応募には裏話がありまして、所属する文芸サークル「木綿葉の会」の開豊代表が「会を売り出すため、みんなで応募しよう」とハッパをかけられたのです。小説部門に5人が応募しました。全体で24篇の応募があったそうです。

最終選考には、開さんの小説「空の色」と私の作品が残り、年の功（?）で私が「一席」となり、開さんが「次席」で決着したそうです。開さんは2度目の「次席」で、手練れの書き手です。

2人で会の存在感を示し、知名度を高めることができましたので、「木綿葉の会」を創設された故・山田章則先生（11回卒、2018年没）もきっと喜んでおられるのではと思います。

拙著「祈る石」は、双子の兄が60歳で亡くなるまでを物語にしたもので、戦後の貧しかった暮らしや双子の持つテレパシーの不思議さ、兄弟愛などを盛り込みました。ただ、私小説にありがちな家族内の赤裸々なエピソードも虚実織り交ぜて書きましたので、両親らは当惑しているかもしれません。

11月中には熊本日日新聞に連載されることになっていますので、お読みいただければ嬉しいです。

コロナ禍を経て再確認した外交の基本

澤村広樹さん（高45回卒）

経歴

八代第四中学校、八代高校（1993年3月卒）、愛知県立大学外国語学部英米学科卒業。

外務省専門職員として2002年4月に入省。ドイツ語を専門言語とし、通算12年間に亘り、ベルリンを含むドイツ語圏3か国に勤務。本省では国際協力局、経済局を経て現在は欧州局に所属し、独語圏を中心とする対欧州外交に従事。

八高時代の状況

今思い返すと恐ろしくマイペースで勉強をおろそかにしていました。課外授業もほとんど出たことがなく、定期テストで赤点を取ったことも。ただ友人には恵まれていて学校に行くのは好きでした。大らかな校風もあって居心地が良かったですし。

ウィーン旧市街にて

外交官を目指した理由

ろくに就活もせずに大学を卒業し、熊本の実家で暮らしていた中で、公務員になるか、何か資格を取ろうと思い、書店に行ったのですが、書棚にあった「外交官になるには」という本をふと手にとってしまったのがきっかけです。当時25歳位だったので、相当な遅咲きですが（笑）。先輩方の寄稿を読むうちに紛争防止や軍縮など、外交活動を通じて平和に貢献する仕事に憧れを抱き、また、大学でも専攻した英語を何とか仕事に生かせないだろうかということを漠然と考えていたこともあり、「これだ！」と思いました。（入省後に難解なドイツ語を習得することになるとは当時は知る由もなかったわけですが。）

勤務地について

これまでにドイツ、スイス、オーストリアに通算12年以上勤務したことになります。各国それぞれ特色があり、独語が公用語であるという共通項で一括りにすることはできません。ドイツは勤勉な国というイメージがありますが、最近ではワーク・ライフ・バランスが進展し、家族との時間や余暇を重視する傾向が強まるなど、日本人が期待するイメージと乖離が生じているように思うことがあります。オーストリアはさらに優雅で大らかであったり、スイスは独語圏に加え、仏語圏及び伊語圏で構成されるので、地域色が豊かであるといった特徴があります。独語圏スイス人が日常話す「スイス・ドイツ語」は、ドイツ人が話すドイツ語とは大きく異なる（TVだと字幕が必要なレベル）というのもあまり知られていない話かも知れません。

日本政府専用機の受け入れ業務

現在の仕事と課題

現在は東京で独語圏を中心に欧州外交に従事しています。戦争が続くウクライナで日々多くの人命が失われる中、戦争を可能な限り早く終わらせるため、また、国際秩序を守るために欧米各国と連携する必要性が大きく高まっています。さらにコロナを受けた水際措置が緩和も相まって欧州各国との外交が活発化する中、ウクライナ関連の業務を担当することもあり、忙しくも充実した日々を過ごしています。

今年の春頃まではコロナによる制限により、相手国の外交官との面会もままならず、メールや電話で顔を知らない相手と仕事をするような状況もあったのですが、夏前頃から、面会での打ち合わせや海外での国際会議に出張するなど、本来の形で仕事を行うことが可能になりました。その中で、何年も前に一緒に仕事をした相手に偶然再会して、「あの時はお互い苦労したよね」みたいな話で旧交を温めるようなこともありました。また、日本に新たに赴任した在京大使館の幹部が仕事の話をするために私の上司に面会に来た際、上司はあえて本題に入る前に「御家族も一緒に赴任されたのですか？」、「お子さんの学校は決まりましたか？」、「困ったことがあれば相談して下さいね。」と本題に入る前にあえてプライベートな話をするのを横で見ていて、20年以上、この仕事に携わってきた中で改めて気づいたことがあります。外交の裾野は幅広いですが、私達に関して言えば、相手国の外交官と顔を合わせ、時に雑談も交えつつ仕事をしながら信頼関係を構築するという基本的な活動の積み重ねが、国と国との信頼関係に繋がるという基本的なことを改めて実感しています。

コロナ禍におけるテレワーク実施により私達の職場でも、様々なIT技術の導入が進みました。この分野に疎い私は格闘の日々を送っているわけですが（苦笑）、それらの新しい技術は総じて業務の効率化に繋がっていると思います。ビデオ会議システムやAI翻訳などのコミュニケーション・ツールは今後さらに進歩していくと思いますが、技術で代替できないアナログな部分でどれだけ相手の心を掴めるか。幅広い経済・社会活動に当てはまる話だと思いますが、特に外交に従事する私にとって意識すべき大切なテーマだと考えています。

ウクライナ復興会議にて

宇宙産業の振興に取り組む

宇宙エバンジェリスト
青木英剛さん
（高49回卒）

八高同窓会のみなさん、こんにちは。「宇宙エバンジェリスト」の青木英剛です。エバンジェリストと言っても、ピンとこない方も多いかもしれません。エバンジェリストとは、「伝道師」とも訳され、IT業界などでは一般的な用語です。最新のテクノロジーなどを大衆向けに分かりやすく説明し、啓蒙する人材のことを指します。元々はキリスト教の伝道師の意味で使われてきた言葉です。私の仕事は宇宙産業の可能性を多くの人に伝え、様々な人に関わってもらえるように支援することです。宇宙エバンジェリストは日本に一人しかいません。宇宙ビジネスと宇宙技術の両方に精通し、宇宙産業の振興ができる人材がまだ日本にはいないからです。

さて遡ること25年ほど前に私は八高を卒業しました。八高での3年間は素晴らしい同級生に恵まれて楽しく過ごしました。一方、自分の将来を真剣に考える3年でもありました。日本の大学は受験せず、アメリカの大学への進学を選びました。英語もろくに話せず、しかも海外に一度も行ったことのない自分が単身渡米するという行為は、周りから見たら無謀に見えたでしょう。私からすれば、世界最高峰の場所で宇宙工学を学びたいという希望を実現するために、宇宙開発の最先端であるアメリカの大学に進学するという選択肢は必然でした。

アメリカでは大学院まで進学して宇宙工学を専攻しつつ、パイロットの免許も取得しました。大学院ではNASAと共同研究を行う機会をもらい、留学生である私に対しても授業料の全額免除と生活費の支給をしていただき、アメリカの教育機関の素晴らしさに助けられました。

卒業後は日本の宇宙開発に貢献すべく、帰国しました。海外生活が長くなると日本の素晴らしさを再認識し、日本を良くしたいと思う人が増えると聞きます。私もその一人でした。日本初の宇宙船「こうのとり」の開発に携わり、見事成功に導き、宇宙技術者として大きな実績を残すことができました。その後、MBA（ビジネススクール）に進学し、宇宙ビジネスの可能性を追求しました。MBA終了後に、宇宙ビジネスと宇宙技術の両方に精通している人が日本にはいないということから、様々な仕事に関わるようになりました。

こうのとりの運用管制官

現在宇宙産業は大きく成長しています。宇宙産業の市場規模は現在60兆円を超えています。半導体や医療機器産業と同じくらいの規模です。2030年代には100兆円を超えることが期待されており、宇宙技術は我々の生活にも必須のものとなっています。例えば、スマホの位置情報やTVの生中継、天気予報や災害状況の把握など、我々の日常生活は宇宙技術なしには成り立たないのです。また、宇宙旅行も盛り上がっており、2021年には一般人で宇宙飛行をした人の数が、各国宇宙機関のプロの宇宙飛行士を上回るという歴史的記録を更新しました。2022年は前年以上に宇宙旅行者数が増加しており、この流れはさらに加速していきます。読者の皆さんは、自分は宇宙とは関係がないと思われている方も多いでしょうが、宇宙技術が知らないうちに我々の生活に浸透し、そして、それらの技術を使って新たなビジネスがどんどん生まれているのです。将来は全ての企業が「IT技術を導入」するように「宇宙技術を導入」する時代が来てもおかしくありません。

ヒューストンにて

現在の私の仕事は多岐に渡ります。宇宙エバンジェリストとして、学生やビジネスパーソンの皆さんに宇宙ビジネスの可能性について講演を行ったり、時には一般市民の方にも初歩的な宇宙の話をすることも多いです。大企業や中小企業には宇宙ビジネスへの新規参入に関するアドバイザーをしたり、ベンチャー企業に対しては投資や創業そのものを一緒に行ったりもします。政府（内閣府や経産省など）やJAXA（宇宙航空研究開発機構）では委員を多く務め、日本の宇宙政策にも関与しています。また、自らも事業創出に関わっており、業界団体を立ち上げたり複数の起業も行っています。国内のみならず世界中を飛び回って世界中の人たちとも仕事をしています。

私が今一番力を入れている活動の1つは、スペースポートジャパンという社団法人の創業者として日本にスペースポート（ロケット発射場や宇宙船の離発着場）を複数誘致するという取り組みです。宇宙飛行士の山崎直子さんと一緒に創業しました。日本には種子島宇宙センターのような政府が運営するスペースポートはありますが、今は自治体や民間企業がスペースポートを運営し、民間のロケットを打ち上げる時代になりました。スペースポートジャパンはそのような取り組みを支援する組織です。現在日本でも複数のスペースポートのプロジェクトが進んでおり、その一つが大分空港です。大分空港には米国の宇宙企業が人工衛星の打ち上げや有人宇宙船の着陸拠点として検討や準備を進めており、そのきっかけを私が作りました。スペースポート大分が後押しとなり、九州各県も宇宙ビジネスの支援を発表しました。自分が生まれ育った九州を宇宙における「ものづくり」「人づくり」「まちづくり」の拠点にすべく、九州各地の関係者と協議を重ねています。誰もが宇宙に行ける時代が目の前にきています。そのような世の中を多くの人と一緒に創っていければと思っています。

宇宙飛行士 山崎直子さんと

妙見祭と民俗芸能の魅力を伝えて種を蒔く仕事

早瀬輝美さん（高35回卒）

私は、昨年7月31日に開館した八代市民俗伝統芸能伝承館（愛称：お祭りでんでん館）で学芸員をしています。それまでは約30年間市立博物館で民俗担当の学芸員として、特に妙見祭や笠鉾について調査研究を行っていました。お祭りでんでん館の開館の年に異動となり、博物館とは全く環境の異なる場所で悪戦苦闘しながら、お祭りでんでん館のあるべき姿を模索した1年を過ごしました。

お祭りでんでん館という愛称は、市内の小学生が考えたものです。「でんでん＝伝伝」で、一つ目の「伝」は、妙見祭や市内の民俗芸能の魅力を伝えるという意味があります。館内には、楽しみながら学べるタッチパネルや飛び出す絵本、迫力ある大画面と2か月に一度の笠鉾の実物展示で妙見祭を楽しむお祭り体感シアターなどがあります。また、3か月ごとにテーマを変えながら笠鉾の部材や芸能の道具や衣装などの実物を展示するお宝ギャラリーもあり、いつでもお祭り気分を味わうことができます。

お宝ギャラリーでは実物を間近で見学

でんでん館 外観

そして、もう一つの「伝」は、未来に伝えていくという意味があります。展示棟の奥には熊本県の有形民俗文化財である妙見祭の笠鉾の部材を保管する収納庫があり、江戸時代から大切に伝えられてきたものを未来にも伝えていくためにつくられました。

しかしながら、祭りや芸能といった無形の文化財は、その時々の社会情勢や世情の影響を受けやすい傾向にあります。例えば近年のコロナ禍による祭りや芸能の中止は、いくつかの芸能の存続に大きな打撃を与えています。華やかに見える妙見祭でさえ、10年先、20年先の姿は不透明です。その土地に住んでいる人だけでの保存継承がだんだん難しくなっていく中で、学芸員としてできることの一つが祭りや芸能に関心を持ち、手助けをしたいと思う人たちを増やすことだと思っています。

小学生を案内中

「財産は分けると減るが、文化は分けると増える」と言った人がいますが、まさにそうだと思います。学芸員の普段の仕事はどちらかというと裏方的な地味な仕事ですが、展示をする時、来館者に説明をしている時、講座をする時…その時々で私は未来のためにせっせと種を蒔いていると思いながら日々励んでいます。

堅い話になってしまいましたが、見どころ満載のお祭りでんでん館。ぜひ一度足を運んでみませんか？

県外での暮らしで気づけた八代の魅力 気づいた僕だから発信できることがある

やっちろテレビ 代表
宮田綾介さん（高60回卒）

みなさんこんにちは！やっちろテレビのたーみーです。現在Youtubeで八代の魅力を発信する「やっちろテレビ」という番組を制作・配信しています。

私は高校卒業後、熊本ベルェベル美容専門学校を経て三重県に就職しました。約8年後、Uターンで八代に戻ってきたとき、自然の豊かさや地域のつながり、子育てのしやすさなど地域の魅力を感じました。しかし、八代で暮らす友人知人と話していると、八代の人が地元の魅力に気づいてないんだなと感じました。

これが「やっちろテレビ」を始めようと思ったきっかけの一つでした。

県外で生活をし、ずっと八代で暮らしていた人とは違った角度で八代の魅力に気づいた私は、このことを八代で暮らす人たちに、また八代から市外・県外に引っ越した人たちに伝えたい、伝えなければいけないと感じたのです。

しかし、いざ始めてみると、試行錯誤の連続でした。企画の立案、撮影の交渉、撮影、編集とどれも未経験でしたので毎日が勉強の日々でした。八代高校に在学していた頃にもこんなに勉強したことはなかったように思います。

そうして作った動画をYoutubeにアップして沢山の人に見てもらえた時は本当にうれしいですね。コメントも欠かさず全て読んでいます。最近はまちで声を掛けてもらえることや編集を褒めてもらえることも増え、モチベーションもモリモリです！

「やっちろテレビ」はまだまだ始まったばかりですが、仲間も増え、少しずつ着実に前に進んでいる実感があります。もっともっと多くの人に八代の魅力を伝えるためこれからも全力で走り続けたいと思います！

最後に、「やっちろテレビ」はQRコードを読み込むとご覧いただけます。是非チャンネル登録と高評価よろしくお願いいたします！

大学生紹介

桐谷知奈さん（高70回卒）

横浜国立大学４年

私は日本語教育に興味を持ち、現在は外国人が多く集まる横浜で学んでいます。小学３年生の春、中国人の女の子が転入してきました。来日して間もない彼女は、わからない日本語のみの授業を受けていました。これが、日本の教育の在り方に疑問を持ったきっかけです。中学生でのカナダへの短期留学で異文化交流に興味を持ち、横浜国立大学教育学部で日本語教育について学ぶ決断をしました。

知り合いのいない環境での一人暮らし。国際交流はおろか、日常生活でも多くの苦労がありました。しかし、「受動的では望む経験は得られない！」不安を抱えながらも、理想の自分像を実現させるべく、決意を固め積極的に行動しました。

それからは留学生と寮で過ごしたり、サークル活動の一環で東南アジアのラオスへ渡航したり、外国人に日本語を教えたりと、積極的に国際交流に関わっています。学外でも外国人が多く通う幼稚園や小学校を定期的に訪問、留学生のサポート、また様々な種類のアルバイトなど貴重な経験を積んでいます。

思えば、この行動力は八代高校での JRC 部での活動を通して培われたものだと感じています。高校時代の友人から刺激を受け、お世話になった先生方からアドバイスをいただきながら活動しています。

私は活動を通して、幼少期の子どもが過ごす環境の大切さに気づきました。ラオスでは学習環境に恵まれない中、夢のために勉強する子どもたちを目の当たりにしました。室内で多くの時間を過ごす日本人の子どもたちとは対照的に、年齢関係なく外で生き生きと遊ぶ姿も印象的でした。

大学２年までは小学校の教師を目指していましたが、大学生活で視野が広がり、卒業後は関東圏内で多くの保育園を運営する会社に就職します。多くの子どもたちによりよい環境を提供できる人材になるため、さらなる学びをしていくつもりです。

今夏は３年ぶりにラオスを訪問しました。サークルで創設した図書館の現状と変化について調査したり、現地の子どもと触れ合ったりしました。常に向上心を持って、好きなことに取り組んでいけるよう頑張ります。

最後に、熊本から遠く離れた大学に進学したことで広がった私の視野や経験を通し、もっと在校生にも選択肢を持ってもらいたいと思っています。そして、その思いを「はちこみゅ」に託しました。実行委員として頑張っています。皆さんもぜひ「はちこみゅ」見てください！

中西悠陽さん（高74回卒）

法政大学法学部法律学科１年

法政大学は現在、東京都内の市ヶ谷・小金井・多摩に３キャンパスを有しております。私が通う市ヶ谷キャンパスは東京都千代田区にあり、旧江戸城外堀や皇居、靖国神社付近に立地しており、都心の緑地に囲まれた大学です。私がこの大学を志望したのは、日本最古の私立の法律学校で歴史があり、東京六大学野球の一校であるということで、法律を学びたい、高いレベルで野球がしたいという２つの夢が合致したからです。

現在は硬式野球部に入部しています。同級生は３０名程で大半が強豪校出身ですので毎日が刺激のある野球生活を送れています。野球部での練習は週６日あり、メイングラウンド・室内練習場・ウエイトルームなどかなり充実した設備の中練習をしています。練習中はグラウンド内に活気があり、とても良い雰囲気で野球が出来ています。私はグラウンド・寮の近くにアパートを借りていますが、朝食と夕食は寮で食べています。そのため、栄養・食事面での心配はありません。ただし、寮から学校までは１時間程かけて電車で通学しています。本来であれば私服での通学ですが、野球部ですのでブレザー着用での通学となっています。

大学での授業は法律と語学を主に勉強しており、難しさもありますが、自分の学びたい専門的な内容を学ぶことが出来ます。入学式は武道館で行われ、初めて入った武道館に圧倒されました。キャンパスが都心部にあるということで、東京のビル街に囲まれながら通学しています。また、空きコマや授業終わりは都内で遊ぶことも出来ます。東京での華やかな大学生活を送ることは出来ていませんが、自分の好きなこと・やりたいことが毎日出来る環境があり、とても幸せです。

コロナ禍により多くの制限がありましたが、私の高校時代はまさに青春そのものでした。そう思えるのは好きなことを全力で楽しんでいたからだと思います。高校生の皆さんも時には嫌な事や苦しい事もあると思いますが、自分の好きな事を楽しんで充実した高校生活を送ってほしいなと思います。

高校生紹介

那須あいさん（高３年）

私が学校生活で一番力を入れていることは課外活動です。課外活動に力を入れ始めたのは進路が決まった３年生からですが、様々な活動に参加することで今まで持てていなかった将来の夢を持つことができました。私の将来の夢のきっかけとなるのがアフリカこどもの日のイベントでした。最初は配られたプリントに紹介がされていて、以前から海外の人と関わるような仕事につきたいと考えていたため、アフリカこどもの日のような海外の文化を知ることができたり、実際に話したりするイベントに参加してみたいと思ったのが参加するきっかけでした。そして参加した際に私は教育の観点からアフリカについての課題やどうやって支援していくべきかなどを考えました。また、アフリカの留学生からお話を聞いたり、他校の生徒と意見交換をしたり、講話を聞くこともできました。今までアフリカに関しては貧困のイメージは持っていましたが、詳しいことは知らず、調べるきっかけもありませんでした。

しかし、参加することで様々な準備を通してアフリカの貧困の原因や子どもたちが学校に行けない理由なども調べ、私達がただ支援するだけではいけない、ただ何も考えずに物を送るだけではいけないと感じました。私達はアフリカのそれぞれの国の現状とそれに至った経緯や原因などの背景を調べ、日本のやり方を押し付けるのではなくその国や地域の人々にあった方法を提案することが一番大事だと感じました。

私はこの活動がきっかけでアフリカに教育の観点からなにか貢献できないかと思い、JICA という団体があることを知り、大学卒業後は JICA の青年海外協力隊に応募し、アフリカで教育の重要性を地域の人や教師に伝えていきたいと考えています。

山口竜蔵さん（高３年）

八代高校での生活も残り少なくなりました。振り返ってみると、高校生活は変化に富んだものだったように感じます。

中でも強く印象に残っているのは令和２年７月豪雨です。幸いにも私の家は直接的な被害を受けませんでしたが、多くの人が被災しました。地元の友人にも避難所生活を余儀なくされた人がいます。私は当時、一時的な復旧作業に参加していました。川の流れのせき止めや土砂の除去など、作業はどれも大変なものでした。しかし、今思い返してみると貴重な体験だったと感じます。自分のことだけで精一杯というときこそ、手と手を取り合って協力することがいかに大切かを身にしみて感じました。

２年生からはインターアクトクラブに入り、ボランティア活動に参加しました。活動は生徒主体で、例会を中心にみんなで意見を出し合いながら活動内容を決定していきます。活動は、市内の清掃活動や花植え、地域の方々との交流など幅広く、様々なことを学ぶことができました。坂本で被災された方々の避難所での活動もあり、グリーンカーテンの設置や餅つきなどを通して地元の方々と関わることができました。

災害時の復旧作業やボランティア活動の中では、感謝の言葉をかけていただく場面が多くありました。自分たちにできる最善の行動の結果いただいた感謝の言葉は、次の活動へのモチベーションに繋がりました。私は、将来は医療系の職に就きたいと考えています。これら八高時代に学んだことを生かして、奉仕の精神を持ち、社会に貢献していきたいと思います。

母校だより

令和4年（2022年）

この1年間の八代高校・八代中学校の様子や生徒たちの活動等について報告いたします。

令和3年12月、高校、中学校ともに新型コロナウイルス対策を講じながら2年振りに修学旅行を行いました。高校は2年生が3泊4日のスキー研修（長野県）、中学校は3年生が2泊3日の京都・大阪研修でした。高校・中学校ともに当初予定から変更はありましたが、コロナ禍の中、実施できたことに感謝の気持ちをもって無事終了することができました。

令和4年3月、高校第74回、中学校第11回卒業証書授与式を卒業生と保護者、教職員の参加で執り行いました。卒業生は、本校での思い出を胸に刻み、新たなステージに進んでいきました。

令和3年度の進路状況です。2年目の大学共通テストは、前年度から比較すると平均点が大幅に下がり難化しましたが、本校生は、厳しい状況の中でも希望を捨てず、自己の伸長に努め、最後まで粘り強く受験してくれました。入試結果の概況は、表のとおりです。国公立大学の合格者は、九州大学7名、熊本大学15名、熊本県立大学15名など100名、私立大学の合格者はのべ398名でした。

	新　卒	卒業生	計
国公立大学	90	10	100
私立大学	373	25	398
短期大学	1	0	1
専門学校	17	1	18
就職・公務員	4	0	4

令和4年3月、本校の「スクール・ミッション」が公表されました。「スクール・ミッション」は、学校の存在意義や期待されている社会的役割、目指すべき学校像で、熊本県教育委員会が、すべての高校生が夢に挑戦できるよう定めたものです。学校の理念や価値、目指す教育とともに、特色化・魅力化についての方向性を明確にし、今後の取組みにつながる内容を示しています。

三綱領「誠実にして真理を愛する」「自律を旨として協和を重んずる」「闊達にして進取の氣象を尚ぶ」のもと、八代地域にある普通科の中高一貫教育校として、生徒一人一人が自己有用感を高め、国際社会の多様性を理解する人権感覚を身に付け、他者とのコミュニケーションを円滑に維持しながら、協働的、発展的に物事を遂行する高い理想をもった自立したグローバル人材を育成します。

そのため、中高一貫の学びと高校入学からの学びを両軸として、生徒の個性を伸ばし、高い理想と学力、豊かな人間性を育む教育を目指します。また、国際交流活動等を推進し、実践的な英語活用能力の向上を図るとともに、特色ある教育活動を通して論理的思考力を高める教育を目指します。

今後は、実践的な英語教育を更に発展させるとともに、持続可能な開発目標（SDGs）の視点を意識し、地域資源を活用した探究活動の更なる深化を図ります。また、国際バカロレア教育の導入を目指し、グローバル化に対応した素養・能力を育成する教育を実践します。

令和4年4月、新たに高校第77回生231名、中学校第14回生70名を新入生として迎え、高校699名、中学校229名、計928名で令和4年度がスタートしました。この2年間は多くの学校行事等を中止・縮小した形で実施してきました。その影響は大きく、これまで繋いできた様々な伝統の継承が難しい場面も見られました。今年度は、コロナ禍も3年になり、できる限り以前の形での学校行事を試みています。

令和4年6月上旬、県高校総体や高校総文祭が開催され、優秀な成績を収めた陸上競技部の大場さん（高2）が女子800mでインターハイに、囲碁将棋同好会の小山さん（高2）と合唱部が全国総文祭に出場しました。6月下旬、八代中体連総体があり、久武さん（中2）が剣道個人代表、鶴山さん（中2）が女子100m背泳ぎで九州大会に出場しました。

令和4年8月、熊本県高校生県議会や八代市中学生議会がありました。中学校、高校ともにそれぞれの視点から議会で鋭い質疑を行っていました。熊本県高校生県議会では、生徒自治会長の金橋さん（高2）が議長の大役を務めました。

令和4年9月、鳳雛祭（体育の部、文化の部）を開催しました。コロナ対策と熱中症対策を講じるため、体育の部は観覧者を制限し1日開催、文化の部は観覧者なしで2日開催で行いました。体育の部は、観覧者を制限したものの3年ぶりに観覧者ありで実施できました。なお、観覧できなかった保護者には、ライブ配信を行うなど、新しい形で学校行事に取り組んでいます。

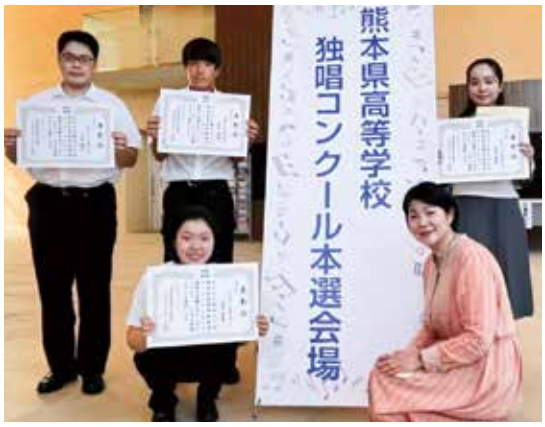
ここからは、今年度の部活動や校内外での主な活躍について紹介します。

【陸上競技部】
●南九州大会
女子800m　大場さん（高2）5位
インターハイ出場

【女子テニス部】
●県高校総体
女子シングルス
伊藤さん（高2）3位
全九州大会出場

【水泳部】
●県高校総体
男子100m平泳ぎ
西村さん（高3）4位
女子　50m自由形
園田さん（高2）4位
女子100m自由形
園田さん（高2）4位
女子100m背泳ぎ
牧さん（高3）3位
女子200m背泳ぎ
牧さん（高3）4位
以上九州大会出場

【合唱部】中高合同
●第46回全国総文祭出場
●熊本県合唱コンクール兼第77回九州合唱コンクール熊本県予選大会　金賞



●第48回熊本県高校独唱コンクール
西田さん（高3）金賞
九州大会出場

【放送部】
●第69回NHK杯
全国高校放送コンテスト熊本県大会
創作ラジオドラマ部門　2位
テレビドキュメント部門　3位
以上全国大会出場

【囲碁将棋同好会】
●第46回全国総文祭囲碁部門熊本県大会
男子個人戦　小山さん（高2）優勝
全国総文祭出場
●第46回全国高校囲碁選手権熊本県大会
男子個人戦　小山さん（高2）準優勝
全国大会出場

【中学校県大会】
●剣道
代表女子個人の部　久武さん（中2）3位
九州大会出場
●水泳
男子　50m自由形　松岡さん（中3）2位
男子100m自由形　松岡さん（中3）4位
女子100m背泳ぎ　鶴山さん（中2）優勝
九州大会出場
女子200m背泳ぎ　鶴山さん（中2）優勝
九州大会出場
女子100m平泳ぎ　古藤さん（中2）3位
女子200m平泳ぎ　古藤さん（中2）4位
●空手道　個人組手　野田さん（中3）3位
●テニス　男子個人　有薗さん（中3）優勝

【中学校九州大会】
●水泳
女子100m背泳ぎ　鶴山さん（中2）5位

【その他】
●WRO　JAPAN2022全国大会
泉さん（高2）準優勝
世界大会出場

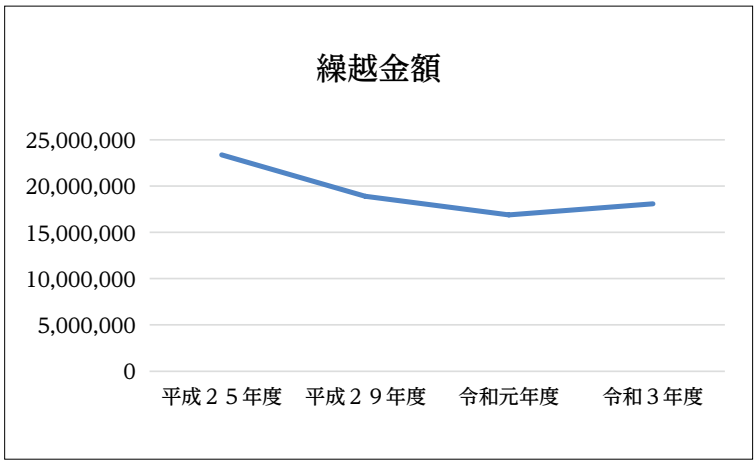
八代高校同窓会では同窓会会計の財務改善のために
次号（同窓会報15号・令和５年度版）ならびに同窓会ホームページに
広告を掲載します

八代高校同窓会報「道」は、創刊以来、政治・宗教・商業主義的な内容や個人の宣伝はしないというコンセンサスがあり、広告は掲載してきませんでした。しかし、今後懸念される同窓会の財務状態を考え、兄弟校である済々黌をはじめ、全国の同窓会で取り組まれている会報やHPへの広告掲載を始めることとなりました。同窓生の皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

１．八代高校同窓会会計の現状では同窓会会計の繰越金が年々減少している

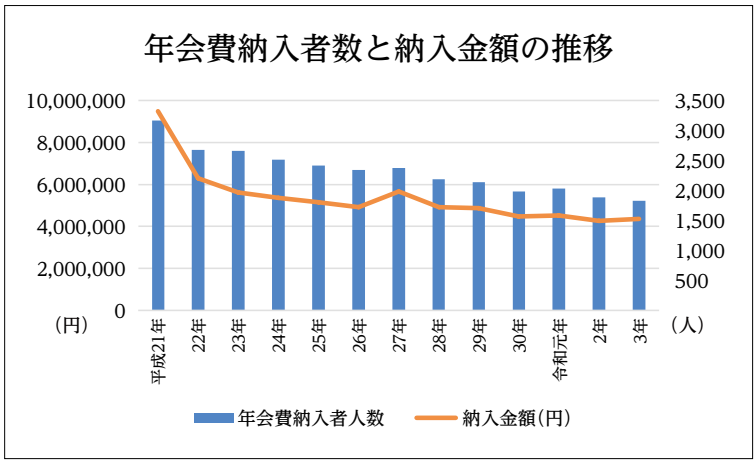
① 同窓会一般会計の繰越金の推移

繰越金減少は、少子化による生徒数の減少から来る入会金減収（最大時１学年11クラス550人　現在６クラス240人）と、同窓会年会費の納入の伸び悩み（平成２年度、３年度はコロナの影響による事業縮小により若干増加）に起因するものです。



② 同窓会年会費の納入状況

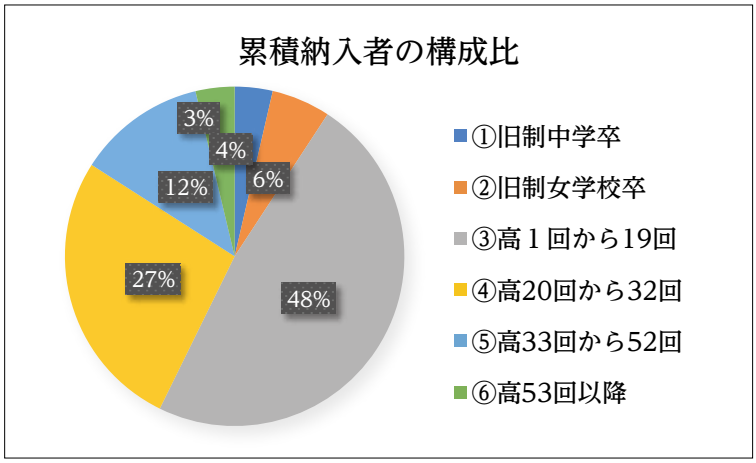
年会費の納入者数及び金額は伸び悩みの傾向にあります。



③ 令和３年度卒業回別累計年会費の振り込み状況

若い世代の年会費納入率の低下が今後の課題となっています。

注）令和3年度末の同窓生総数は38,801人うち、逝去者を除いた住所判明者総数は22,232人



2．これまでの八代高校同窓会の財務改善に向けての取り組み

同窓会はこれまで

① 八代高校同窓会会計の将来を考え、年会費制の導入と全国の同窓生に向けて年１回の同窓会報の発行

② 若い世代向けの同窓会情報を発信する同窓会ホームページの充実

③ 卒業生の住所不明者（9,000人程度）の住所確認作業

④ 地区同窓会の結成の支援

以上の取り組みをしてきましたが、財務改善に向けた抜本的な解決には至っていません。

3．八代高校同窓会報･ホームページに広告を掲載し、同窓会会計の財務改善を図る

熊本県下の多くの高校同窓会の会計でも財務関係は悪化しているのが現状ですが、済々黌の場合平成28年度から同窓会報に広告を掲載し、財務環境が飛躍的に改善しています。例えば、一般会計の繰越金を見た場合、平成25年度には3,205,307円だったものが、令和２年度では、19,846,021円となり、10年間で＋16,640,714円となっています。

4．広告料・掲載方法について

① 同窓会報への広告掲載と料金について

対　象：全国の同窓生がトップの企業、ＰＴＡ、卒業生の保護者の方の企業

掲載料：名刺大の大きさが１マスで５万円

例）１ページ２列６段12マスで構成し、同窓会報後ろのページにまとめて掲載します。会社のロゴやオリジナルなデザインがございましたらそれを掲載します。

■ 会報広告サンプル

② 同窓会ホームページの場合

対　象：全国の同窓生がトップの企業、ＰＴＡ、卒業生の保護者の方の企業

掲載料：ホームページ上に企業ないし個人のバナーを掲載し、そこから企業ないし個人のホームページ、ブログ等にリンクさせます。リンク料は１バナー５万円です。

■ ホームページのバナーサンプル

5．広告の申し込み・問い合わせについて

広告の申し込みは近日中に同窓会ホームページ及び各地区同窓会よりご案内の予定です。

広告掲載に関する問い合わせは八高同窓会事務局までお願いします。

TEL 0965−33−4138　　FAX 0965−35−8463

事務局直通 080−2743−9712

メールアドレス　85jimukyoku@hachiko-dosokai.com

八代高校同窓会は八高同窓生のための組織です。また母校八高生の教育振興や人格形成のために様々な支援をしていく組織です。同窓会のさらなる発展のため、同窓会会計の財務改善を図る同窓会報及び同窓会ホームページへの広告掲載にご協力下さい。

八高生、がんばれ！

卒業生からの応援プロジェクト！「はちこみゅ」＆「お仕事図鑑」

“在校生を応援したい！”そんな思いで、二つのプロジェクトが動き出しました。

「はちこみゅ」とは？

「現役八高生に、大学についてのリアルな情報を伝えたい！」という思いからできた、八代高校卒業の大学生が運営するコーナーです。

新型コロナウィルスの影響を受け、行動制限や各大学のオープンキャンパスが実施されないなど、進路に関する情報収集に苦労していている、また八代という地方都市の特性から、大学や学部選びの選択肢が広がりにくいという現状があります。

運営チームはそんな実情を知り、「卒業生だからこそ、届けられる情報があるのではないか！」と思い立ちました。大学生活、学部での学び、受験の勉強法や心構えなどなど、受験をする前に知っておくと便利な情報を提供していきます。

できるだけ多くの大学や学部の情報を提供していく予定です。

▼ 大学紹介

▼ 質問する

「お仕事図鑑」とは？

創立126年を迎える伝統ある母校八代高校は、これまでもそして今も多くの同窓生が多方面で活躍しています。同窓生の仕事に関する経験や知識を、よりスムーズに在校生に提供できるよう、ご協力頂ける同窓生のリストを同窓会で作成し、管理していくものです。

趣旨＆活用法

＊在校生の将来設計の一助を担う事を第一の目標とします

学校からの講師依頼などの要望に、応え易くなります。IT環境が整備されたことにより、遠隔地であってもリモートでの講演やワークショップ等が可能になり、より幅広い人材の確保を学校も期待しています。進路や将来設計に迷う生徒たちに社会人の生の声を届けることで、より具体的に将来への目標を立てることが可能になり、且つ選択肢も広がると考えます。

＊同窓会と八代高校、八代中学、また各地区同窓会間のより密な連携が可能になります

同窓会で情報を管理することで、各地区同窓会での講演会やワークショップなどへの講師依頼の情報を提供でき、八高卒の大学生との交流にも役立てることができます

「はちこみゅ」と「お仕事図鑑」、皆様のご協力をお待ちしております！

八代高校同窓会 各支部・地区同窓会 連絡先
2022年度(令和4年度)

■ 八代高校関東地区同窓会
会長　勝井梅子（高21回）　　事務局長　後本一幹（高21回）
事務局所在地　〒207-0013 東京都東大和市向原3-900-23 後本一幹税理士事務所内
TEL 042-563-9218　FAX 03-6369-3461
定例総会　毎年9月の土曜日　東京都内の会場で開催

■ 八代高校東海同窓会
会長　坂田孝之（高18回）　　事務局長　岩崎健作（高23回）
事務局所在地　〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-14-24
ライオンズビル第2丸の内705 (株)旅行プランサービス内
TEL 052-204-1945　FAX 052-204-1943
定例総会　毎年4月の第3土曜日　名古屋市内の会場で開催

■ 八高関西同窓会
会長　大川郁夫（高24回）　　事務局長　新村　守（高49回）
事務局所在地　〒530-0047 大阪市北区西天満5丁目9-3 アールビル本館7階
弁護士法人村上・新村法律事務所　新村守（高49回）方
TEL 06-6316-8364　FAX 06-6316-8368
定例総会　毎年6月の第1土曜日　大阪市内の会場で開催

■ 八代高校岡山同窓会
会長　久保田壽一（高18回）　事務局長　江村清二（高20回）
事務局所在地　〒703-8262 岡山市中区福泊11-118 江村清二（高20回）方
TEL 086-276-8050

■ 八代高校広島県同窓会
会長　片山茂光（高19回）　　事務局長　村田栄治（高28回）
事務局所在地　〒738-0036 廿日市市四季が丘4-6-14 村田栄治（高28回）方
TEL 0829-88-9211（Fax兼用）

■ 八代高校山口県同窓会
会長　山下鐵洋（高14回）　　事務局長　中村裕子（高21回）
事務局所在地　〒755-0151 宇部市西岐波村松402 中村裕子（高21回）方
TEL 0836-51-1046

■ 八代高校同窓会福岡支部
会長　　事務局長　礒部和之（高23回）
事務局所在地　〒811-1346 福岡市南区老司2-23-80 礒部和之（高23回）方
TEL 092-565-2232
定例総会　毎年7月第1土曜日　博多祇園山笠にあわせて実施　福岡市内の会場で開催

■ 八代高校同窓会熊本市支部
会長　中西雄一（高20回）　　事務局長　坂田雅孝（高24回）
事務局所在地　〒861-4172 熊本市南区御幸笛田4-11-5 坂田雅孝（高24回）方
TEL 096-379-0852
定例総会　隔年10月の土曜日　熊本市内の会場で開催

■ 八代高校大分同窓会
会長　草柳英一郎（高12回）　事務局長　松本宏次（高15回）
事務局所在地　〒870-0848 大分市賀来北1丁目2-40 松本宏次（高15回）方
TEL 097-549-3386

■ 八代高校鹿児島県同窓会
会長　森岡和之（高16回）　　会長事務局兼任
事務局所在地　〒891-0102 鹿児島市星ヶ峯3-29-10 森岡和之（高16回）方
TEL 099-265-6508

■ 八代高校長崎地区同窓会
事務局　德永哲郎（高27回）
事務局所在地　〒852-8126 長崎市石神町39-41 德永哲郎（高27回）方
TEL 095-844-6106

令和３年度 八代高校同窓会会計 決算書

収入の部	5,649,971円
支出の部	5,034,982円
前年度繰越金	17,486,499円
次年度繰越金	18,101,488円
年会費振込者数 総金額	1,824人 4,351,300円

令和４年度 八代高校同窓会会計 予算書

収入の部	6,255,000円
支出の部	6,460,000円
前年度繰越金	18,101,488円
次年度繰越金	17,896,488円

会費の振込金額改定について

同窓会の財務状況の悪化に伴い、現在振込手数料を会員の皆様に負担していただいておりますが、最近コンビニでの振込手数料が値上がりし、また郵便振込の場合は、手数料203円に加え、現金扱い手数料として、さらに窓口で110円支払う必要が出てまいりました。そこで振込金額をコンビニ振込は2,200円、郵便振込は用紙を手数料加入者負担（赤色）に変更し、コンビニ振込同様手数料込の2,200円に改定させていただきたいと思います。その結果、

・コンビニ振込はカウンターでの手数料なし。
・郵便振込は窓口で、さらに手数料￥110が必要。
・郵便振込の場合、￥10,200で6年分、￥4,200で2年分を前納することができる

となります。
出費多端の折ですが、事情をご理解の上、よろしくお願いいたします。

住所変更時の連絡のお願い

住所を変更されましたら、事務局までご連絡ください。

連絡先 〒866-0885 熊本県八代市永碇町856 熊本県立八代高等学校同窓会
TEL 0965-33-4138　FAX 0965-35-8463
事務局直通 080-2743-9712
メールアドレス　85jimukyoku@hachiko-dosokai.com
同窓会ホームページからも住所変更の手続きができます。
ホームページアドレス　http://www.hachiko-dosokai.com/index.htm

令和５年度 八代中学・八代高女・八代高校 同窓会総会

日時：令和５年８月26日㈯　　会場：八代ホワイトパレス

できるだけ実施の方向で考えておりますが、新型コロナウィルスの感染状況次第では中止にせざるを得ない場合もございます。

高3回生 野々口哲朗様から26,290円の寄付をいただきました。有意義に使わせていただきます。ありがとうございました。

編集後記　「戦争と平和」 ウクライナ戦争を機に考えてみた

2月24日ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まった。核兵器の使用をちらつかせ、武力による領土拡張という前史的であり、国際秩序に反する行為は決して許されるべきではない。女性や子供を含め多くの市民が犠牲となっている。送られてくる戦地の映像は悲惨極まりない。今回の戦争を機に広報委員に「戦争と平和」について語ってもらった。

8月6日改めて映画「ひろしま」を観てみた。この映画は1951年、広島市の中学・高校生、教職員、一般市民等88,500人が手弁当のエキストラとして参加し制作された。原爆投下後から6年しかたっておらず、被爆した広島市民の記憶も新しく、映し出された原爆当日の映像は生々しい。2度とこんな悲劇を繰り返してはならないと思った。(C.H)

ロシア×ウクライナ戦争が勃発した時、この時代に戦争?と思ったが実は世界中至る所で戦争は起きている。日本も日々、危険に晒されてはいるものの、様々な努力により70年も戦争とは無縁である。そのありがたみを今こそ感じながら「戦争をしない」という"伝統"誇りに、守り続けることが今を生きる我々の使命であると思う。(H.E)

「戦争を知らない子どもたち」世代なんてウソぶいていられない67才の今の自分。好戦的なリーダーが次々生まれる今、答えはまだまだ風の中で、How many roads....と揺れている。でも、でも、それでも言う"No More War"と!!(H.O)

戦争とは『武力による国家間の闘争』。私たち個人にできることはとても小さく微力だが、せめて一番身近な家族間で互いの意見を尊重し、多様性を認め合う関係づくりを心掛けて生きたい。小さな行動もたくさん集まれば世界を変える力になると信じて。(H.U)

祖父母はすでに他界した。妻の方もそうだ。おおむね生まれた順に死んでいった。父と母はまだまだ元気だ。私には夢というか願望がある。行くときは順番どおりに。父や母より先は嫌だが、我が子たちよりは先が良い。これを政治的に強制的に狂わされることなど、冗談じゃない。そういう人を見聞きすることさえ、耐え難い。(M.M)

ロシアのウクライナ侵攻は、現代社会に武力による圧力がこの時代にもあるということを明らかにした。普段はあまり意識しない、民族、宗教等色々なものを一度に考えた。やはり、人と人が分かりあうには忍耐強く対話を続けることであるとだと強く感じた。夫婦関係も同じである。忍耐強く対話を続けなければならない。(M. S)

戦争も安保闘争も知らない「ノンポリ」世代と揶揄されながらも、のうのうと学生時代を満喫し、社会人になってからはバブル期をまた思う存分楽しんだ。「戦争の世紀」と呼ばれた20世紀の数々の悲劇は所詮他人事だった。果たして今はどうだろう。映画「ホテルルワンダ」の「可哀そう!と言いながらみんな夕食を食べているんだ」というセリフが忘れられない。(N.Y)

度々ニュースの悲惨な映像を見て、自分の身に起こったらと考えると震えます。戦争はどんな国でも起こる可能性はあって、自分が何か行動して根本が変わることはないけれど、考え続けなければいけない問題で、ちゃんと後世に伝え、戦争が起きないよう1人1人が向き合うべきだと思います。(R. M)

なぜ戦争は起きるのだろうか。宗教、領土、政治など様々な理由があるのだろう。でも果たしてそれは人の命を超えるものなのであろうか。今年４歳、２歳になる子供が、先日外国人の子供たちと公園で仲良く滑り台を滑っていた。この純粋な気持ちがいつまでもいつまでも続いてほしいと心から願った。(S.T)

幼い我が子とジャンケンをする。勝っても負けてもお互いに笑う。翻って国際情勢について、勝っても負けてもその先に破滅しか無いような世界を、これからの世界は望むだろうか？今号に掲載の、高校49回卒青木英剛さんの記事をご覧下さい。宇宙的な視野で地球号を想像出来たなら、少しだけ平和へと近づけるかも知れません。(Y.N)

写真でたどる八高史

「目で見る百年の歩み」より②～高女編～

明治35年
八代郡立高等女学校（現在の八代東高校の場所）

明治38年
第1回卒業生（34名）

明治44年
運動会（フォークダンス）

昭和10年
修学旅行

昭和10年
調理実習（懐かしい釜と七輪）

昭和10年
美術の授業（若き日の北八代先生）

昭和11年
授業風景

昭和13年
体育授業

昭和13年
文化祭

昭和15年
報国農場での農作業

創立126年
Since 1896